

小山市経済動向実態調査

(2023 年度最終報告書)

2024 年 3 月

小山市産業観光部商業観光課委託

白鷗大学ビジネス開発研究所

小山市経済動向実態調査

(2023 年度最終報告書)

目次

要旨	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象・調査内容	3
2.1. 調査対象	3
2.2. 調査内容	6
2.3. 質問番号の変更	7
3. 調査結果	8
3.1. 全般的な小山市の景気	8
3.2. 小山市における業界の景気	14
3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問	30
4. 小山市経済動向ヒアリング調査	37
5. まとめ	49
(参考資料)	51
i. 小山市景気動向アンケート調査票(2023 年度第 2 回)	51
ii. 小山市景気動向アンケート調査(2023 年度第 2 回)の回答一覧	57
iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)	77

小山市経済動向実態調査プロジェクトメンバー

白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	西谷 勢至子
白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	高木 孝紀
白鷗大学経営学部講師・ビジネス開発研究所運営委員	八尾 政行
白鷗大学総合研究所担当職員	櫻庭 律子
(協力)白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究所所長	小笠原 伸

小山市経済動向実態調査

(2023 年度最終報告書)

2024 年 3 月

白鷗大学ビジネス開発研究所

白鷗大学ビジネス開発研究所では、小山市産業観光部商業観光課からの委託を受けて小山市の消費面を中心とした経済動向を把握するため、2002(平成 14)年度以降、小山市経済動向実態調査を実施している。2023(令和 5)年度小山市経済動向実態調査では、小山市景気動向アンケート調査(6 月と 12 月)とヒアリング調査(2 月)を実施した。本報告書は 2023 年度小山市景気動向アンケート調査(第 2 回)の調査結果およびヒアリング調査をまとめた 2023 年度小山市経済動向実態調査の最終報告書である。

要旨

2023 年 11 月から 12 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(2023 年度第 2 回)」の結果をみると、2023 年下半年(7~12 月期)の小山市の全般的な景況感は、前回調査(2023 年上半年(1~6 月期)から「どちらともいえない」、「やや悪い」の割合が上昇し、「やや良い」、「悪い」の割合が下落した。景気動向指数(DI)でみると、前回から下落し、2 期ぶりに 50%を下回った。その理由としては、「お客様や取引先の様子」、「小山市の人出の状況」、「物価の動き」が上位に挙げられており、特に「小山市の人出の状況」について、前回、前々回から割合の上昇が続いている。

小山市の景気見通しに関して、前回の調査と比べ、「変わらない」、「やや悪くなる」の割合が上昇し、「やや良くなる」、「悪くなる」の割合は下落した。DI でみると 53.0%と前回(56.4%)から下落したものの、2 期連続で 50%を上回った。その回答理由によると、人流の回復、外出増といった前向きな要因がみられた一方で、物価高、人手不足や、中小企業の給与の伸び悩みといったことが懸念事項として言及されていた。

業界の小山市での売上金額についての回答についてみると、2023 年下半年(7~12 月期)は、「増加した」、「変わらない」の割合が上昇し、「やや増加した」、「やや減少した」の割合が下落した。DI でみると 57.6%と前回(54.3%)から上昇し、2 期連続で 50%を上回った。

売上見通しについては、「増加する」、「変わらない」、「やや減少する」の割合が上昇し、「やや増加する」、「減少する」の割合が下落した。DI でみると 54.5%と前回(55.7%)と横ばいであり、3 期連続で 50%以上となった。その回答理由によると、物価の上昇や為替の変化に関する言及が見られた。

販売価格見通しについて、2024 年上半年(1~6 月期)は 2023 年下半年(7~12 月期)と比べ、「変わらない」の割合が上昇し、「やや上昇する」の割合が下落した。DI でみると 59.1%と、前回(61.4%)、前々回(57.6%)から横ばいであるものの、6 期連続で 50%を超え、調査開始以来 4 番目に高い水準となった。この結果は今回の調査の他の質問の回答で見られた、物価上昇への言及が反映されたものであると考えられる。

雇用見通しについては、2024 年上半年(1~6 月期)は 2023 年下半年(7~12 月期)と比べ、「やや過剰となる」の割合が上昇し、「不足する」、「横ばい」の割合が下落した。DI でみると、60.6%と、前回(65.0%)か

ら下落したものの、6期連続で50%を上回った。近年、社会・経済が新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)から回復を目指す中で、人手不足が深刻化することが見込まれる。

資金繰りの状況に関して、2023年下半期(7~12月期)は2023年上半期(1~6月期)と比べ、いずれの項目も横ばいであり、DIでも、48.5%と、前回(47.9%)、前々回(47.7%)から横ばいであり、4期連続50%を下回った。

賃金等の状況について、前回調査と比べ「ボーナスの増額」、「定期給与の引下げ」の割合が上昇し、「ベースアップを実施」、「ボーナスの実施」、「定期昇給を実施」、「ボーナス以外の手当の増額」の割合が下落した。その回答理由を見ると、利益が上がったこと、人材を確保するため、物価の上昇といった理由から賃金を上昇させるという回答が見られた。

今回のアンケート調査では、前回調査に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関する質問と、2023年10月1日から、複数税率に対応した消費税額の仕入税額控除の方式として、「適格請求書等保存方式(インボイス制度)」が開始されたため、このインボイス制度に関する質問を追加で行った。

まず、コロナ禍に関する質問では、コロナ以前とアンケート対象期間の状況の比較を、供給面、営業・勤務形態等、需要面に分けてたずねた。その結果をみると、全般的にコロナ禍前の状況へ回帰している傾向が見られた。これは、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法に基づく位置づけが、季節性インフルエンザと同じ5類感染症に変更となった効果が続いているものと考えられる。ただ、低下傾向にあるとはいえ需要面では「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」が最も高い割合であり、「会食への参加人数が減少している」という回答も見られた。

インボイス制度の業務への影響に関する質問の結果を見ると、「順調に対応できている」の割合が72.7%、「対応がやや遅れている」の割合が24.2%、「対応が大幅に遅れている」の割合が0.0%となった。多くの業界、企業はインボイス制度への対応が進められているものの、取引企業への対応等、業務負担の増加に関する意見が多く見られた。

ヒアリング調査(聞き取り調査)は、2024年2月に行われた。ヒアリング調査では、景気の現状について、業種や企業により差異はあったが、多くが、需要の回復がみられた後に、原材料・エネルギー価格が高騰した影響を受けているとのことであった。また、大部分の企業が物価高を受けて賃上げを行い、人件費が上がっているとの回答を得た。いくつかの企業に対して、2024年問題についての質問を行った。2024年問題とは、働き方改革関連法案により、2024年4月1日から、年間時間外労働時間の上限規制が適用されることにより生じる諸問題を指す。2024年問題については、コストの増加や納期の遅れ、輸送効率を上げるための拠点整備の必要性、仕分けの手間の増加、業務時間の変更などの影響に対し対応を進めているとの声があった。

1. 調査の目的

小山市景気動向アンケート調査は、小山市の景気動向を把握するため、小山市の流通業、サービス業、製造業などの企業、店舗に対して小山市の景況、各業界の業況等をアンケート形式で調査したものである。

2. 調査対象・調査内容

2.1. 調査対象

2023年11月から12月にかけて、小山市内の企業120社程度を対象に小山市の景気動向に関するアンケート調査を行い、33社から回答を得た。回収率は約27.5%である。

図表 2-1 回答企業の業種別構成

業種	社数(社)	
	今回	前回
流通業(小売業)	5	10
製造業	9	8
金融・保険業	3	3
運輸業	3	2
ホテル・旅館業	1	1
飲食業	0	0
通信・放送業	1	1
不動産・住宅業	4	3
サービス業	5	4
印刷業	0	0
その他・不明	2	3
合計	33	35

(注) 前は2023年6月調査、業種を複数選択した企業、選択肢外の業種を回答した企業はその他・不明に分類した。

前回調査(2023年6月)に比べ

- ・ 増加した業種: 製造業、運輸業、不動産・住宅業、サービス業
- ・ 減少した業種: 流通業(小売業)、その他・不明

図表 2-2 回答企業の従業者数

従業員数(人)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
1~4	7	21.2	17.1	15.2
5~9	6	18.2	17.1	12.1
10~19	2	6.1	17.1	18.2
20~29	3	9.1	8.6	6.1
30~49	2	6.1	5.7	15.2
50~99	5	15.2	20.0	18.2
100以上	7	21.2	14.3	15.2
不明	1	3.0	0.0	0.0
合計	33	100.1	99.9	100.2

(注) 前回は 2023 年 6 月調査、前々回は 2022 年 12 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

前回調査(2023 年 6 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した従業者規模: 1~4 人、100 人以上、不明
- ・ 構成比が 2%ポイント以上減少した従業者規模: 10~19 人、50~99 人

図表 2-3 回答企業の売上高

売上高(円)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
3,000 万未満	6	18.2	14.3	15.2
3,000 万~1 億未満	5	15.2	11.4	9.1
1 億~5 億未満	6	18.2	34.3	30.3
5 億~10 億未満	4	12.1	11.4	9.1
10 億以上	10	30.3	25.7	24.2
不明・該当なし	2	6.1	2.9	12.1
合計	33	100.1	100.0	100.0

(注) 前回は 2023 年 6 月調査、前々回は 2022 年 12 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

前回調査(2023 年 6 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した年間売上高規模: 3000 万未満、3000 万~1 億未満、10 億以上、不明・該当なし
- ・ 構成比が 2%ポイント以上低下した年間売上高規模: 1 億~5 億未満

図表 2-4 回答企業における売上割合

小山市内の 売上割合(%)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
80~100	8	24.2	22.9	33.3
60~79	9	27.3	22.9	27.3
40~59	3	9.1	14.3	9.1
20~39	4	12.1	14.3	12.1
0~19	6	18.2	20.0	18.2
不明・該当なし	3	9.1	5.7	0.0
合計	33	100.0	100.1	100.0

(注) 前回は 2023 年 6 月調査、前々回は 2022 年 12 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

小山市内の売上割合が 60%以上の企業数の合計は 17 社(51.5%)となった(前回調査: 45.7%)。

2.2. 調査内容

今回の調査内容は、質問 1 から質問 17 までは、従来の調査と同様に、景況感に関わる項目である。そのうち、質問 1 から質問 5 までは、全般的な小山市の景気の現状および先行きに関してたずね、質問 6 から質問 17 までは、回答企業自身についての現状および先行きに関してたずねている。質問 18～21 は新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の状況についてたずねた。2023 年 10 月 1 日から、複数税率に対応した消費税額の仕入税額控除の方式として、「適格請求書等保存方式(インボイス制度)」が開始された。質問 22～24 はインボイス制度に関する質問事項となっている。

質問 1：小山市の景気の現状(水準)

質問 2: 質問 1 の回答理由

質問 3: 質問 2 の具体的な回答

質問 4: 2023 年下半年(7～12 月期)の小山市の景気見通し

質問 5: 質問 4 の回答理由

質問 6: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

質問 7: 質問 6 の回答理由(家計消費向け取引)

質問 8: 質問 6 の回答理由(企業消費向け取引)

質問 9: 質問 7、8 の具体的な回答

質問 10: 業界の小山市での売上見通し

質問 11: 質問 10 の回答理由

質問 12: 2023 年下半年(7～12 月期)の販売価格見通し

質問 13: 2023 年下半年(7～12 月期)の雇用見通し

質問 14: 2023 年上半年(1～6 月期)の資金繰りの状況

質問 15: 質問 14 の回答理由

質問 16: 2023 年度の賃金等の状況

質問 17: 質問 16 の回答理由

質問 18: コロナ禍の影響(供給面)

質問 19: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)

質問 20: コロナ禍の影響(需要面)

質問 21: 質問 18～20 の回答理由

質問 22: インボイス制度の対応状況

質問 23: インボイス制度導入に伴う懸念事項

質問 24: インボイス制度に対応するための取り組みや、現在認識している課題

2.3. 質問番号の変更

前回の調査から毎回の調査で行っている質問(3.1.全般的な小山市の景気、3.2.小山市における業界の景気)の番号を以下の図表 2-5 の通り変更した。この変更に伴い、「質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)」と「質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)」は、「質問 9: 質問 7、8 の具体的な内容」に統合した。この変更に合わせて、過去の調査結果のデータを記載している「(参考資料)iii.小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)」(77～90 ページ)の質問番号も変更した。

図表 2-5 質問番号の変更

変更前の質問番号 (2022 年度第 2 回調査まで)	変更後の質問番号 (2023 年度第 1 回調査から)
質問 1: 小山市の景気の現状(水準)	質問 1: 小山市の景気の現状(水準)
質問 2-1: 質問 1 の回答理由	質問 2: 質問 1 の回答理由
質問 2-2: 質問 2-1 の回答理由	質問 3: 質問 2 の具体的な回答
質問 3: 次期の小山市の景気見通し	質問 4: 次期の小山市の景気見通し
質問 4: 質問 3 の回答理由	質問 5: 質問 4 の回答理由
質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)	質問 6: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)
質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)	質問 7: 質問 6 の回答理由(家計消費向け取引)
質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)	質問 8: 質問 6 の回答理由(企業消費向け取引)
質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)	質問 9: 質問 7、8 の具体的な内容
質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)	質問 10: 業界の小山市での売上見通し
質問 7: 業界の小山市での売上見通し	質問 11: 質問 10 の回答理由
質問 8: 質問 7 の回答理由	質問 12: 次期の販売価格見通し
質問 9: 次期の販売価格見通し	質問 13: 次期の雇用見通し
質問 10: 次期の雇用見通し	質問 14: 今期の資金繰りの状況
質問 11: 今期の資金繰りの状況	質問 15: 質問 14 の回答理由
質問 12: 質問 11 の回答理由	質問 16: 今年度の賃金等の状況
質問 13: 今年度の賃金等の状況	質問 17: 質問 16 の回答理由
質問 14: 質問 13 の回答理由	

3. 調査結果

3.1. 全般的な小山市の景気

質問 1 から質問 5 までは、全般的な小山市の景気についてたずねた。以下その結果を述べる。

3.1.1. 小山市の景気の現状(水準)(質問 1～3)

質問 1 では全般的な小山市の景気の現状(水準)をたずねた。2023 年下半期(7～12 月期)は「良い」0.0%、「やや良い」21.2%、「どちらともいえない」54.5%、「やや悪い」21.2%、「悪い」3.0%となった。前回と比べ「どちらともいえない」、「やや悪い」の割合が上昇し、「やや良い」、「悪い」の割合が下落した。前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「どちらともいえない」(+8.8)、「やや悪い」(+15.5)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや良い」(-18.8)、「悪い」(-5.6)

となった。DI¹で見ると 48.5%と前回(54.3%)から下落傾向にあり、2 期ぶりで 50%を下回った(図表 3-1,3-2)。

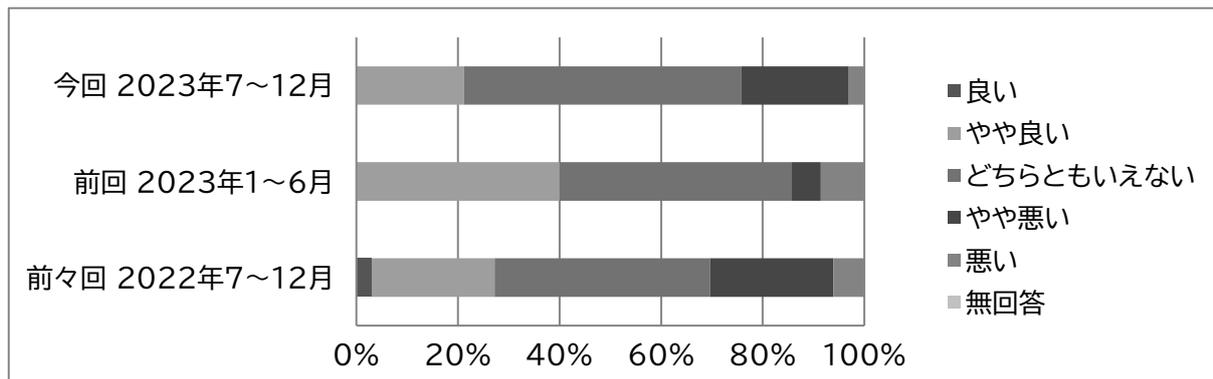
質問 1 の回答理由(質問 2)についてみると、「お客様や取引先の様子」(69.7%)、「小山市の人出の状況」(15.2%)、「物価の動き」(15.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-3)。特に「小山市の人出の状況」について、前回、前々回から割合の上昇が続いている。

質問 2 の具体的な回答内容(質問 3)では、2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、客足の回復が見られるとの意見があったが、物価高、円安、人手不足といった懸念も挙げられていた。

¹ DI (Diffusion Index)とは、景気動向指数の一つであり、回答(%)の「良い」を 1、「やや良い」を 0.75、「どちらともいえない」を 0.5、「やや悪い」を 0.25、「悪い」を 0 として、構成比(無回答を除く)で加重平均したものである。DI が 50%を超えると景気回復、50%を下回ると景気悪化を示唆している。

質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

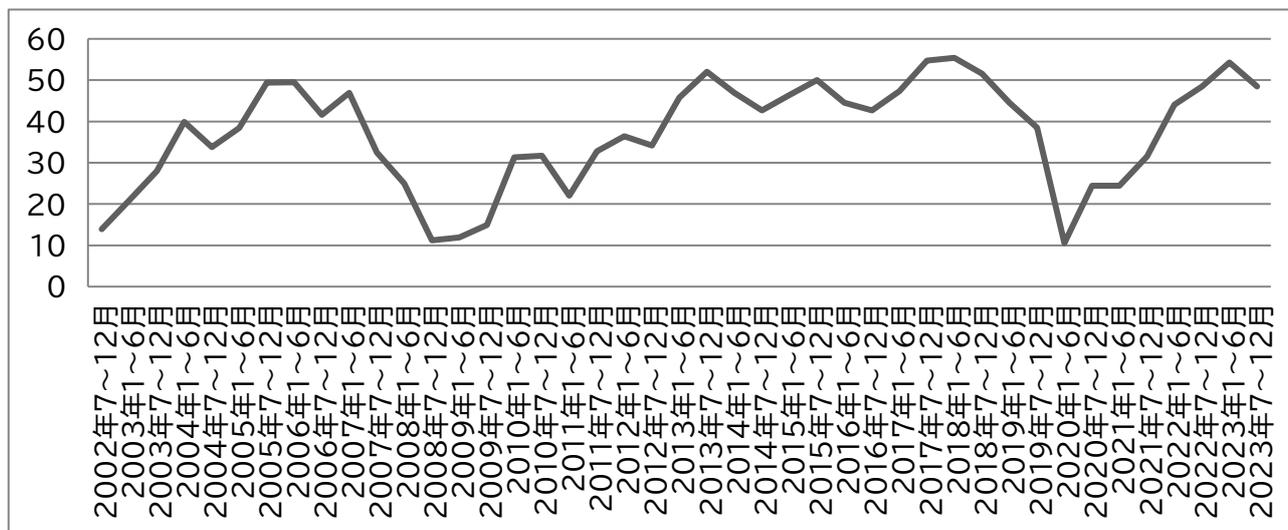
図表 3-1 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

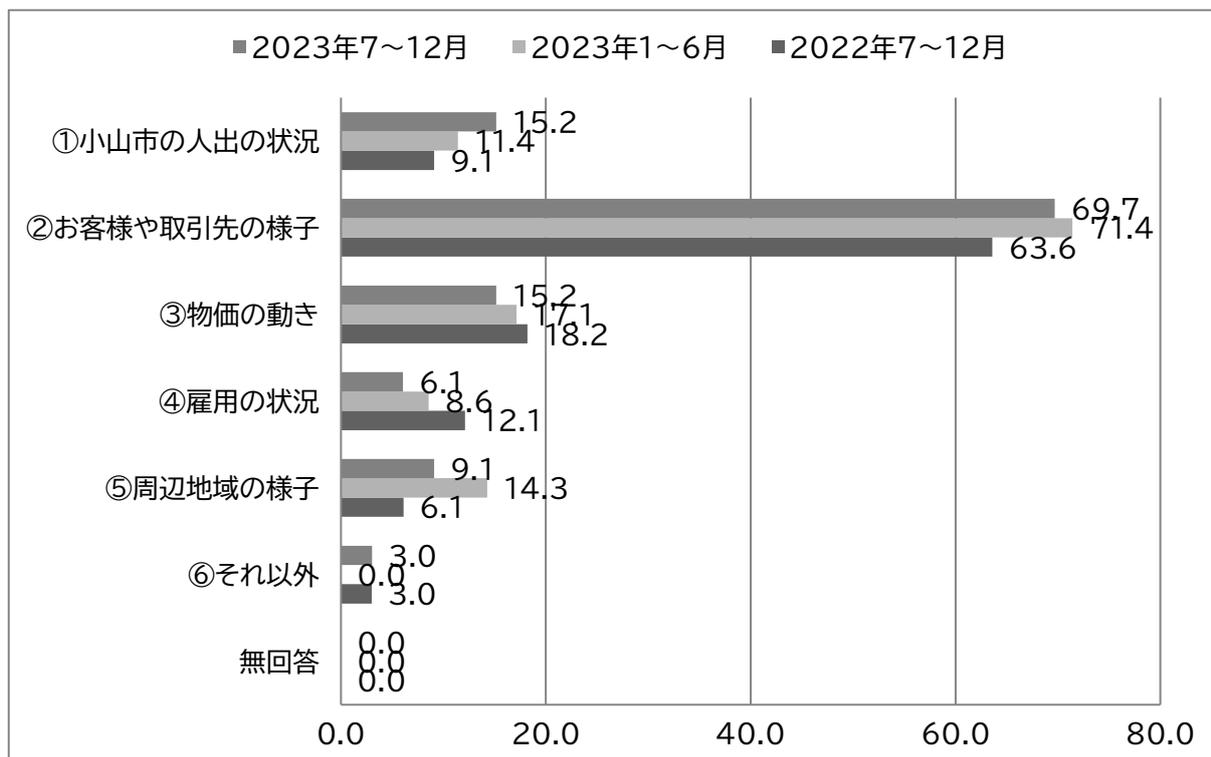
	良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回 2023年7~12月	0.0	21.2	54.5	21.2	3.0	0.0	48.5
前回 2023年1~6月	0.0	40.0	45.7	5.7	8.6	0.0	54.3
前々回 2022年7~12月	3.0	24.2	42.4	24.2	6.1	0.0	48.5

図表 3-2 DIの推移(%)



質問 2: 質問 1 の回答理由

図表 3-3 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)(%)



(%)

質問 2 質問 1	①小山市の 人出の状況	②お客様や 取引先の様子	③物価の 動き	④雇用の 状況	⑤周辺地域の 様子	⑥それ以外	⑦無回答
良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや良い	6.1	9.1	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0
どちらとも いえない	9.1	42.4	12.1	6.1	3.0	0.0	0.0
やや悪い	0.0	15.2	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0
悪い	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	15.2	69.7	15.2	6.1	9.1	3.0	0.0

(注) 33社に対する比率。複数回答があり、合計は100%にならない。

質問 3: 質問 2 の具体的な回答内容

◆ やや良い

- ・ 「コロナが 5 月より 5 類となり外出しやすくなった。」(①小山市の人出の状況)
- ・ 「飲食店を中心に来店増。特に居酒屋は宴会利用が大幅増。」(②お客様や取引先の様子)
- ・ 「建物・土地価格上昇を感じておりますが、購入が停滞していない。」(③物価の動き)
- ・ 「平地林が伐採されて、どんどんヤードになっていく様子を見て」(⑤周辺地域の様子)

◆ どちらともいえない

- ・ 「利用者数の変化なし。」(①小山市の人出の状況)
- ・ 「コロナが 5 類に移行して、お客の数が増えたが、1 回の購入額は増えていない。」(②お客様や取引先の様子)
- ・ 「新型コロナが 5 類になったが、円安や国際情勢不安の影響を受け、エネルギーや食料品など多くの生活必需品の価格が上昇し、足元の暮らしを直撃している。」(③物価の動き)
- ・ 「会議等での人が集まる機会が多くなり、タクシー、代行等でも人の流れ動きが戻っている。飲食店、スーパー、電機店などの価格が上昇している。取引先は景気がコロナ前に戻っていると店と戻らない店とまちまち。」(①小山市の人出の状況、②お客様や取引先の様子、③物価の動き)
- ・ 「需要が増えつつあるが、人手不足、物価高はより供給が追いつかないため。」(①小山市の人出の状況、③物価の動き、④雇用の状況)
- ・ 「人手不足による影響が大きいと考える。」(②お客様や取引先の様子、④雇用の状況、⑤周辺地域の様子)

◆ やや悪い

- ・ 「販売内容において、要因は他にもありますが、単価減少、客数減少傾向。」(②お客様や取引先の様子)
- ・ 「食料品以外の商業店舗には客が少ないように感じる。」(⑤周辺地域の様子)

◆ 悪い

- ・ 「10 月中旬頃より主力の工場が動かなくなった。」(②お客様や取引先の様子) など

3.1.2. 2024 年上半期(1～6 月期) の小山市の景気見通し(質問 4,5)

質問 4 の小山市の景気見通しに関して、2024 年上半期(1～6 月期)は 2023 年下半期(7～12 月期)と比べ、「良くなる」0.0%、「やや良くなる」27.3%、「変わらない」57.6%、「やや悪くなる」15.2%、「悪くなる」0.0%となった(図表 3-4, 3-5)。前回と比べ「変わらない」、「やや悪くなる」の割合が上昇した。一方で、「やや良くなる」、「悪くなる」の割合は下落した。前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

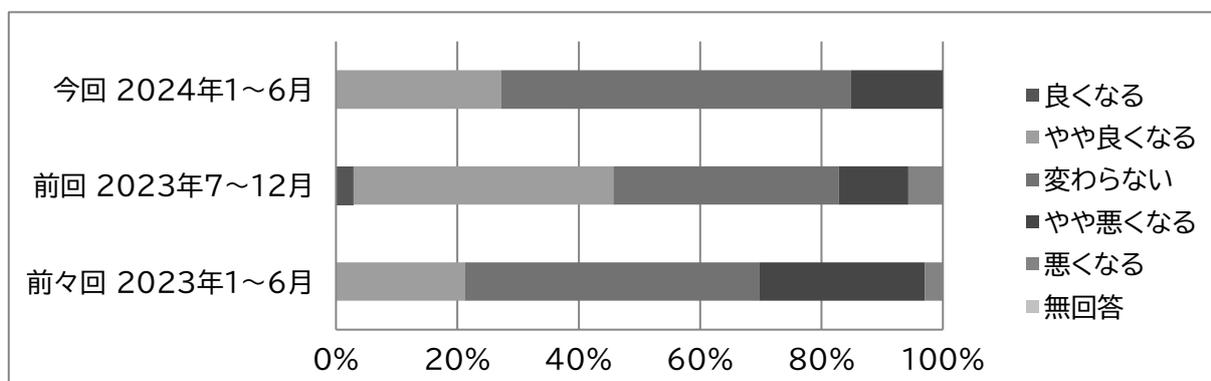
- ・ 3%ポイント以上増加: 「変わらない」(+20.5)、「やや悪くなる」(+3.8)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや良くなる」(-15.6)、「悪くなる」(-5.7)

となった。DI でみると 53.0%と前回(56.4%)から下落したものの、2 期連続で 50%を上回った。

質問 4 の回答理由(質問 5)では、人流の回復、外出増といった前向きな要因がみられた一方で、物価高、人手不足や、中小企業の給与の伸び悩みといったことが懸念事項として言及されていた。

質問 4: 2024 年上半期(1～6 月期) の小山市の景気見通し

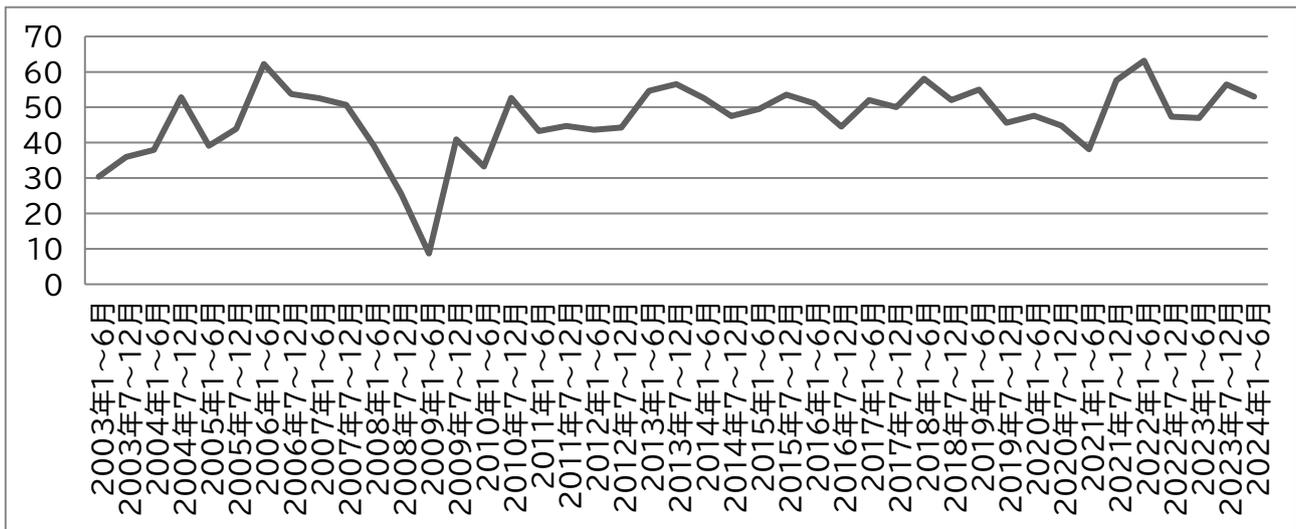
図表 3-4 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回 2024 年 1～6 月	0.0	27.3	57.6	15.2	0.0	0.0	53.0
前回 2023 年 7～12 月	2.9	42.9	37.1	11.4	5.7	0.0	56.4
前々回 2023 年 1～6 月	0.0	21.2	48.5	27.3	3.0	0.0	47.0

図表 3-5 DI の推移(%)



質問 5: 質問 4 の回答理由

- ◆ やや良くなる
 - ・ 「人流回復、外出増の反面、日々の節約志向は上昇するのでは。(特に食品/衣料)」
 - ・ 「良い住宅の供給を追求しているが、昨年より問い合わせが増えている。」
 - ・ 「ウクライナ、イスラエル等、国際情勢は厳しいが、現状からわずかながらもよくなる(と期待を込めて)」
- ◆ 変わらない
 - ・ 「これまでと変わらず、高級車は売れ行き不透明。」
 - ・ 「円安、物価高等企業収益が左右される要因が多くあるから。」
 - ・ 「物価高、人手不足が改善されないため。」
- ◆ やや悪くなる
 - ・ 「多くの物が値上がりしているが中小企業の従業員の給与が上がらない為。」
 - ・ 「客先の生産が落ちている。」

など

3.2. 小山市における業界の景気

質問 6 から質問 14 までは、小山市における回答企業・店舗の業界景気動向をたずねた。以下その結果を述べる。

3.2.1. 業界の小山市での売上げ(質問 6～9)

業界の小山市での売上げについて、2023 年下半期(7～12 月期)は「増加した」12.1%、「やや増加した」27.3%、「変わらない」42.4%、「やや減少した」15.2%、「減少した」3.0%となった(図表 3-6, 3-7)。前回と比べ「増加した」、「変わらない」の割合が上昇し、「やや増加した」、「やや減少した」の割合が下落した。前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「増加した」(+6.4)、「変わらない」(+16.7)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや増加した」(-12.7)、「やや減少した」(-7.7)

となった。DI でみると 57.6%と前回(54.3%)から上昇し、2 期連続で 50%を上回った。

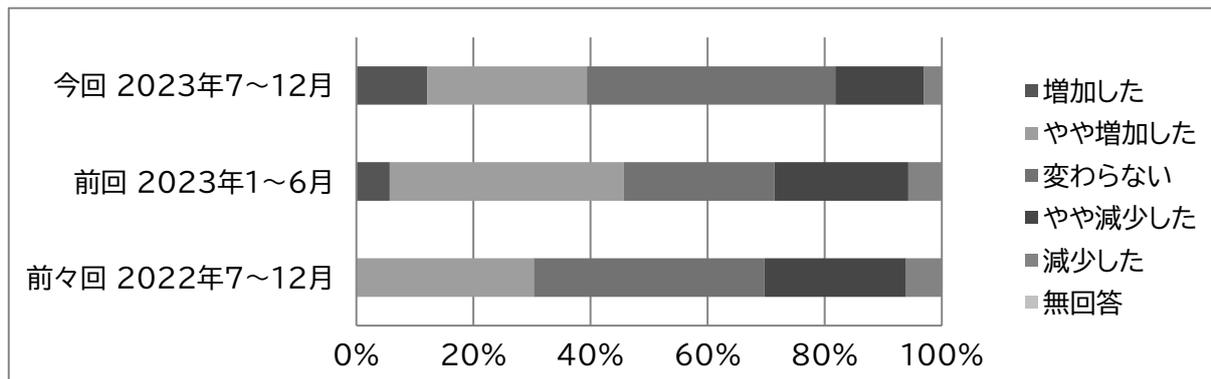
質問 6 の回答の理由(家計消費向け取引)(質問 7)についてみると、家計向け取引の場合、「家計消費向け取引(B to C)を行っていない」を除いて、「来客数の動き」(27.3%)、「販売量の動き」(18.2%)、「客単価の動き」(18.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-8)。

企業向け取引(質問 8)の場合、「企業向け取引(B to B)を行っていない」を除いて、「受注量や販売量の動き」(36.4%)、「受注価格や販売価格の動き」(30.3%)、「取引先の様子」(24.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-9)。

具体的な回答内容(質問 9)では近年続いている物価上昇についての言及が多く見られた一方で、新型コロナウイルス感染症の流行に関する直接的な回答は見られなかった。

質問 6: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

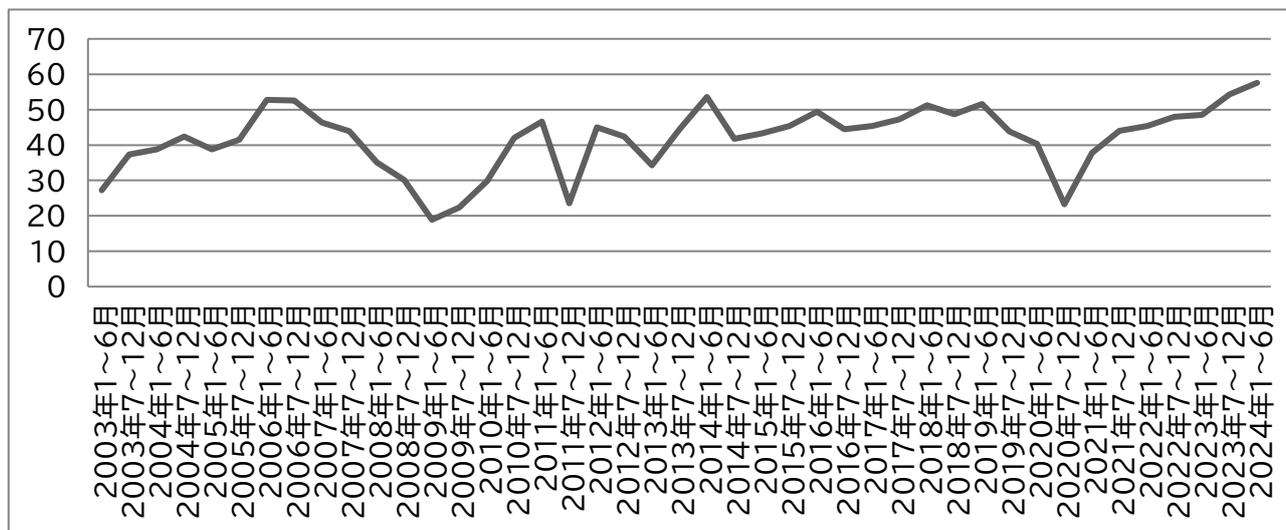
図表 3-6 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

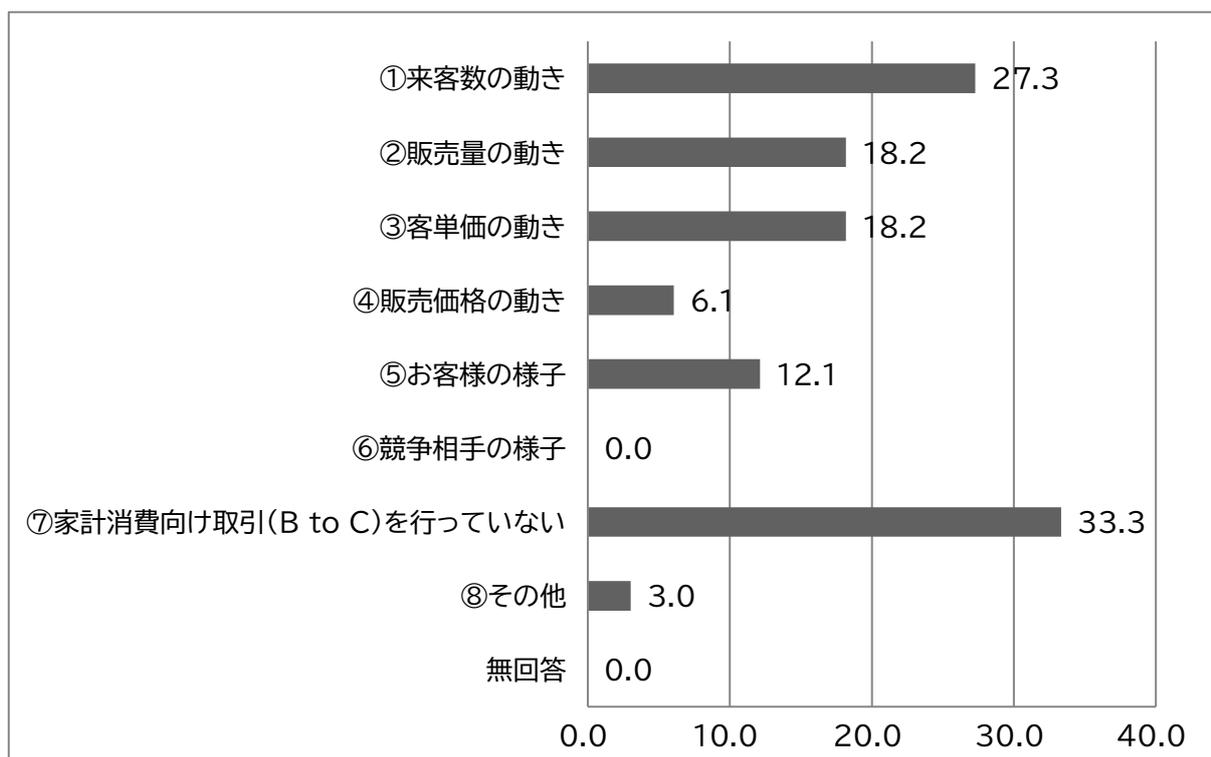
	増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	減少した	無回答	DI
今回 2023年7~12月	12.1	27.3	42.4	15.2	3.0	0.0	57.6
前回 2023年1~6月	5.7	40.0	25.7	22.9	5.7	0.0	54.3
前々回 2022年7~12月	0.0	30.3	39.4	24.2	6.1	0.0	48.5

図表 3-7 DIの推移(%)



質問 7: 質問 6 の回答理由(家計消費向け取引)

図表 3-8 質問 7 と質問 6(家計消費向け取引)のクロス集計(%)



(注) 複数回答があり、合計は 100%にならない。

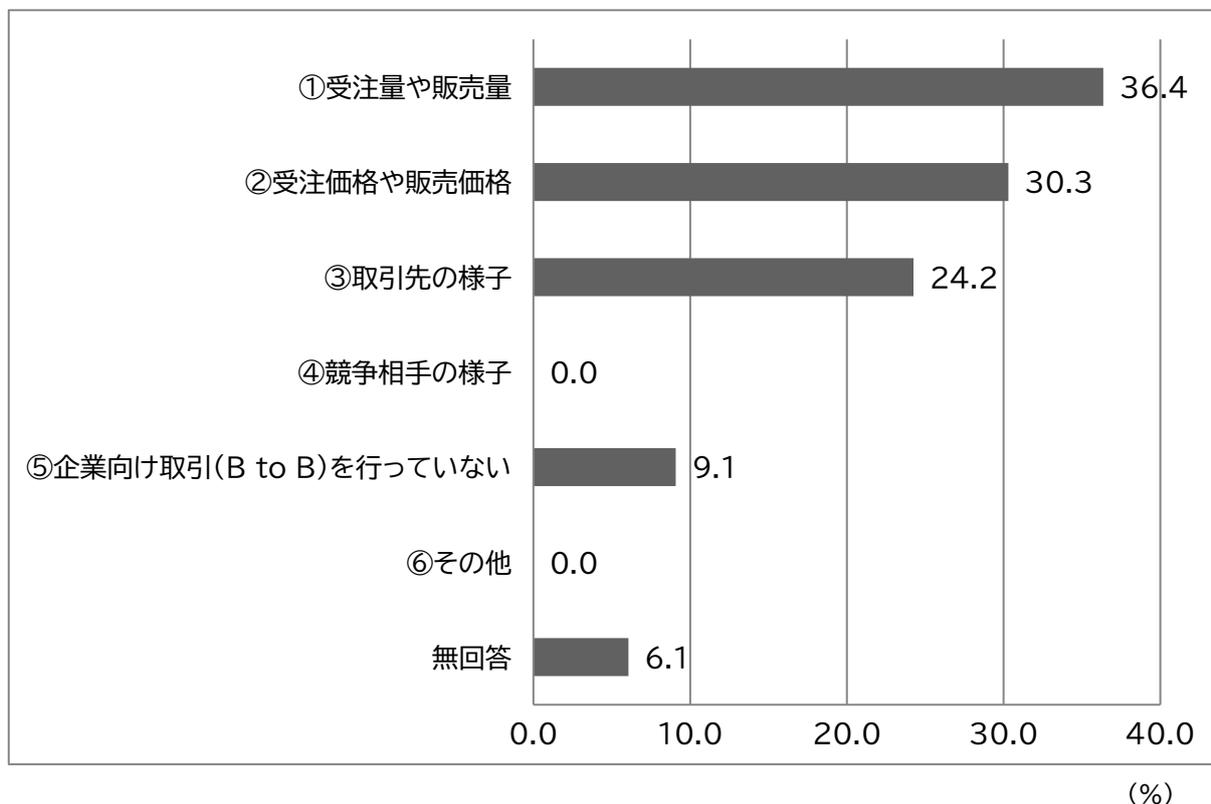
(%)

質問 7	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答
質問 6									
増加した	6.1	3.0	6.1	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0
やや増加した	6.1	6.1	6.1	3.0	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0
変わらない	12.1	6.1	3.0	0.0	9.1	0.0	18.2	0.0	0.0
やや減少した	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0
減少した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	27.3	18.2	18.2	6.1	12.1	0.0	33.3	3.0	0.0

(注) 表の%は 33 社に対する比率。

質問 8: 質問 6 の回答理由(企業向け取引)

図表 3-9 質問 8 と質問 6(企業向け取引)のクロス集計(%)



質問 8	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答
質問 6							
増加した	6.1	6.1	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0
やや増加した	9.1	12.1	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0
変わらない	12.1	6.1	18.2	0.0	0.0	0.0	6.1
やや減少した	9.1	6.1	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
減少した	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	36.4	30.3	24.2	0.0	9.1	0.0	6.1

(注) 表の%は 33 社に対する比率。

質問 9: 具体的な回答

- ◆ 増加した
 - ・ 「物価高や燃料費の上昇を受け、運賃の値上げを徐々に行っている。コロナ期と比べ、受注量も増加しているの、売上は相対的に上がる。」(運輸業、質問 7⑦、質問 8①、②)
- ◆ やや増加した
 - ・ 「人の動きが出ている。出張も多少増えている。」(運輸業、質問 7②、質問 8①)
 - ・ 「生産量、生産高増、受注量、受注高増のため」(製造業、質問 7⑦、質問 8①)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「販売価格を維持しながら生産コストを下げ値差を確保している。」(製造業、質問 7⑦、質問 8②)
 - ・ 「原材料が高騰しているの、動きがわるい。」(製造業、質問 7⑤、質問 8①)
 - ・ 「物量は減少しているが、運賃が多少上がっている。」(運輸業、質問 7⑦、質問 8②)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「客単価の減少。」(流通業、質問 7①、質問 8①)
など

3.2.2. 業界の小山市での売上見通し(質問 10、11)

業界の小山市での売上見通しに関して、2024 年上半期(1～6 月期)は 2023 年下半期(7～12 月期)と比べ、「増加する」3.0%、「やや増加する」24.2%、「変わらない」60.6%、「やや減少する」12.1%、「減少する」0.0%となった(図表 3-10, 3-11)。前回と比べ「増加する」、「変わらない」、「やや減少する」の割合が上昇し、「やや増加する」、「減少する」の割合が下落した。前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

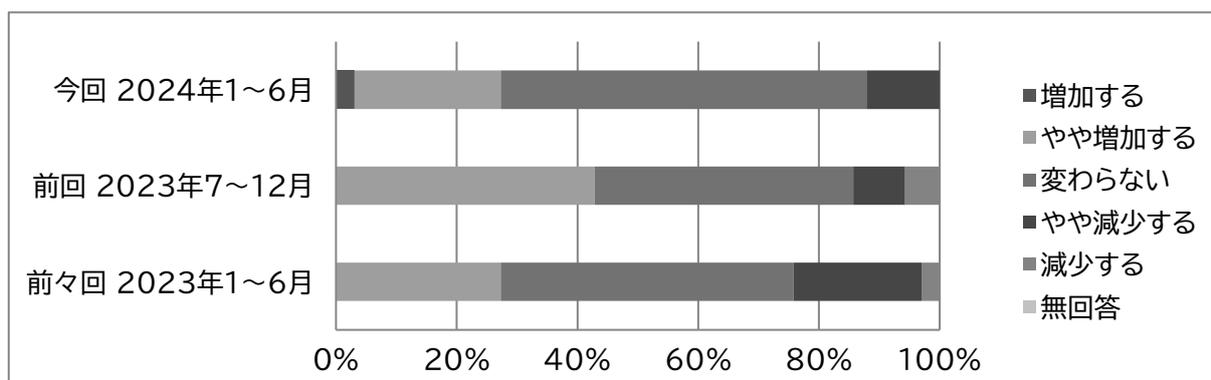
- ・ 3%ポイント以上増加: 「増加する」(+3.0)、「変わらない」(+17.7)、「やや減少する」(+3.5)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや増加する」(-18.7)、「減少する」(-5.7)

となった。DI でみると 54.5%と前回(55.7%)と横ばいであり、3 期連続で 50%以上となった。

質問 10 の回答の理由(質問 11)についてみると、物価の上昇や為替の変化に関する言及が見られた。

質問 10: 業界の小山市での売上見通し

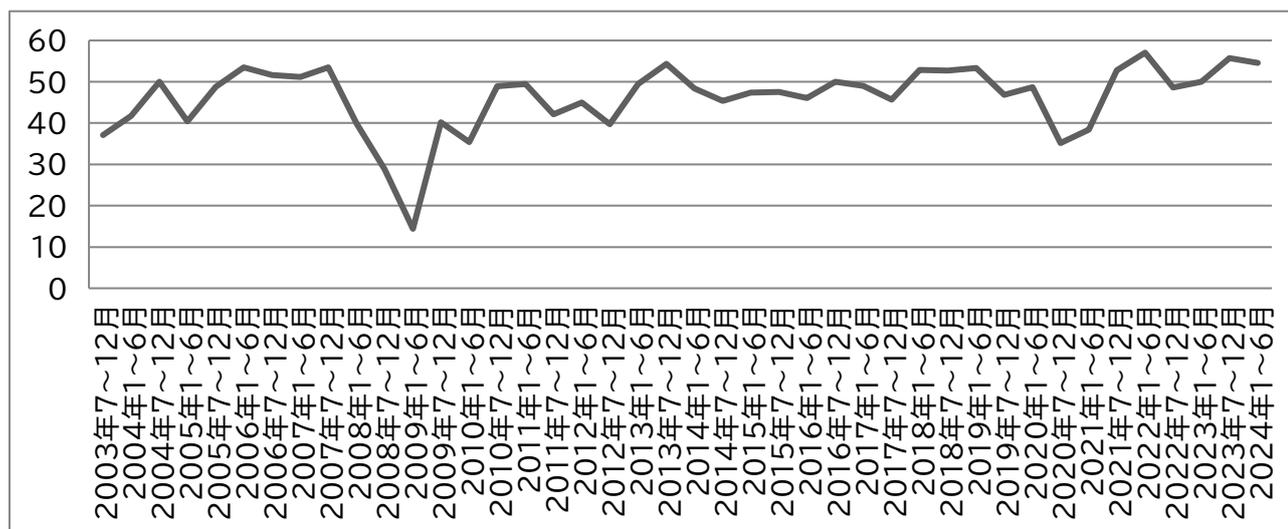
図表 3-10 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	DI
今回 2024 年 1～6 月	3.0	24.2	60.6	12.1	0.0	0.0	54.5
前回 2023 年 7～12 月	0.0	42.9	42.9	8.6	5.7	0.0	55.7
前々回 2023 年 1～6 月	0.0	27.3	48.5	21.2	3.0	0.0	50.0

図表 3-11 DIの推移(%)



質問 11: 質問 10 の回答理由

- ◆ 増加する
 - ・ 「コロナ前の物品(受注残)が売上になる為。」(流通業(小売業))
- ◆ やや増加する
 - ・ 「棟数は横ばいだが、単価が上がっているため。」(不動産・住宅業)
 - ・ 「輸出する品物が増加しそうだから。」(運輸業)
 - ・ 「コロナ感染症に対する意識がうすれてきた。慣れてきてしまった。季節的要因かもしれないが、この部分は大きいと思う。」(その他)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「受注量を変わずに維持している。」(製造業)
 - ・ 「大きな設備投資など見込みがないから。」(金融・保険業)
 - ・ 「為替の動向に左右される部分もあるので読みづらい。」(金融・保険業)
- ◆ やや減少する
 - ・ 「農機業界の為、農家の高齢化等による減少」(製造業)
 - ・ 「物価の高騰」(製造業)
 - ・ 「冠婚葬祭の縮小」(サービス業)

など

3.2.3. 2024 年上半期(1～6 月期) の販売価格見通し(質問 12)

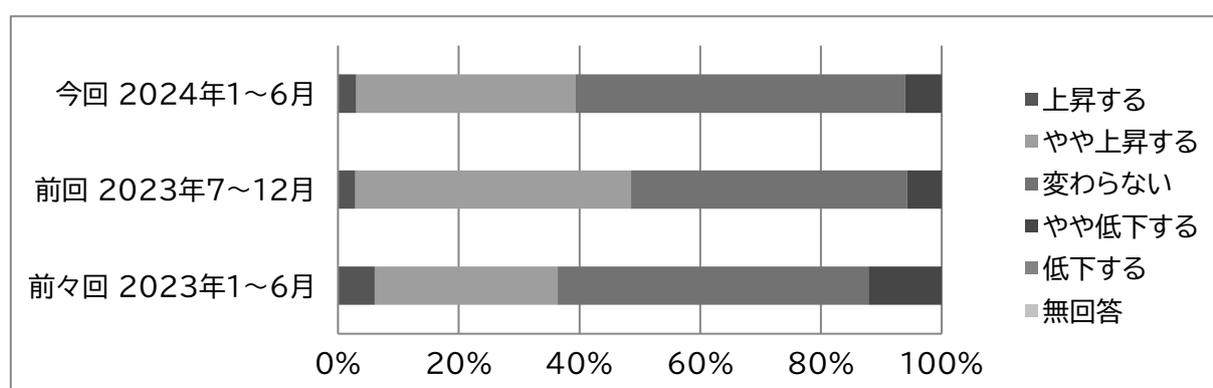
販売価格見通しについて、2024 年上半期(1～6 月期)は 2023 年下半期(7～12 月期)と比べ、「上昇する」3.0%、「やや上昇する」36.4%、「変わらない」54.5%、「やや低下する」6.1%、「低下する」0.0%となった(図表 3-12, 3-13)。前回と比べ「変わらない」の割合が上昇し、「やや上昇する」の割合が下落した。前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「変わらない」(+8.8)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや上昇する」(-9.3)

となった。DI でみると 59.1%と、前回(61.4%)、前々回(57.6%)から横ばいであるものの、6 期連続で 50%を超え、調査開始以来 4 番目に高い水準となった。

質問 12: 2024 年上半期(1～6 月期) の販売価格見通し

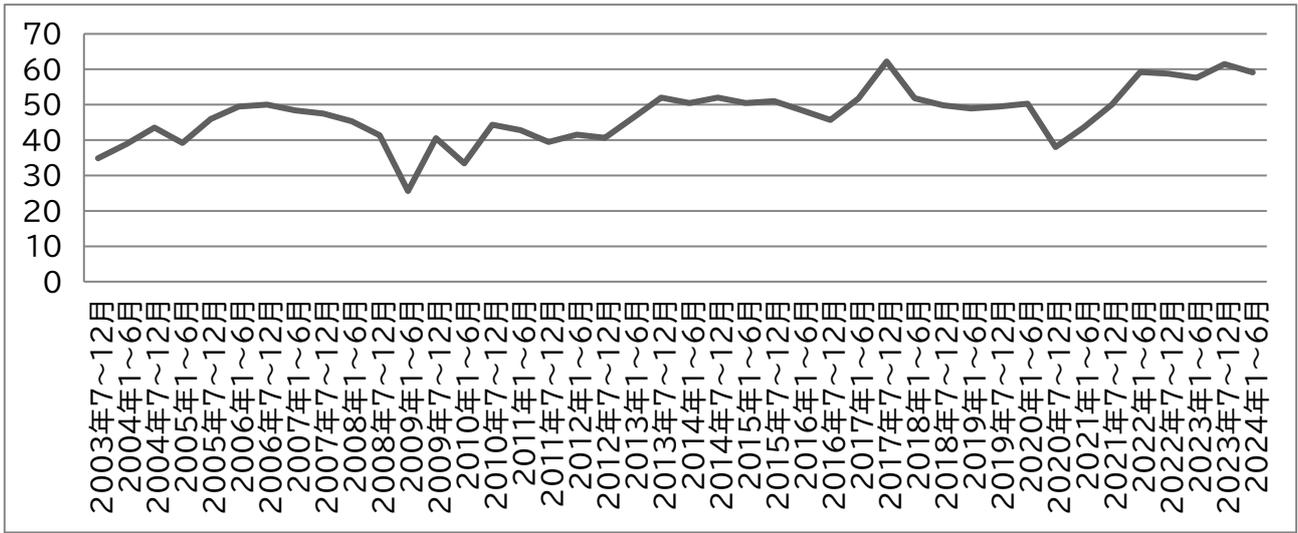
図表 3-12 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回 2024 年 1～6 月	3.0	36.4	54.5	6.1	0.0	0.0	59.1
前回 2023 年 7～12 月	2.9	45.7	45.7	5.7	0.0	0.0	61.4
前々回 2023 年 1～6 月	6.1	30.3	51.5	12.1	0.0	0.0	57.6

図表 3-13 DIの推移(%)



3.2.4. 2024 年上半期(1～6 月期) の雇用見通し(質問 13)

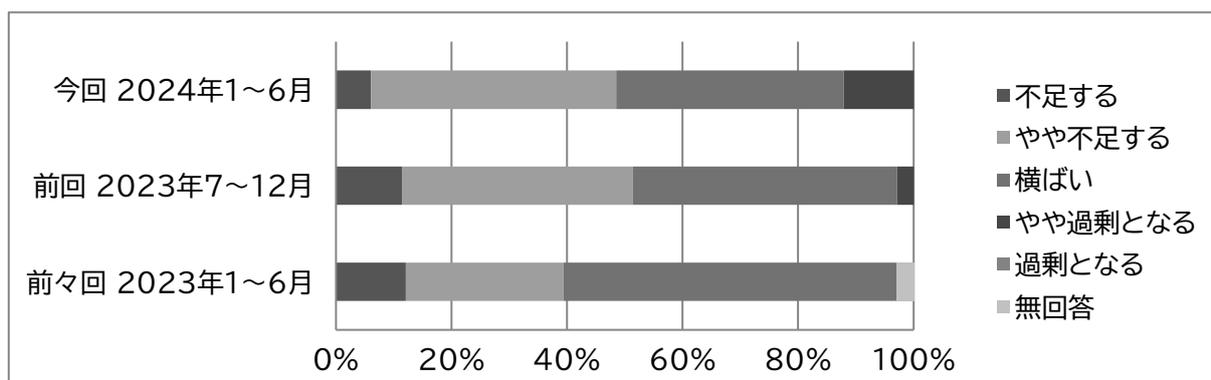
質問 13 の雇用見通しに関して、2024 年上半期(1～6 月期)は 2023 年下半期(7～12 月期)と比べ、「不足する」6.1%、「やや不足する」42.4%、「横ばい」39.4%、「やや過剰となる」12.1%、「過剰となる」0.0%となった(図表 3-14, 3-15)。前回と比べ「やや過剰となる」の割合が上昇し、「不足する」、「横ばい」の割合が下落した。前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや過剰する」(+9.2)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「不足する」(-5.3)、「横ばい」 (-6.3)

となった。DI でみると 60.6%と、前回(65.0%)から下落したものの、6 期連続で 50%を上回った。

質問 13: 2024 年上半期(1～6 月期) の雇用見通し

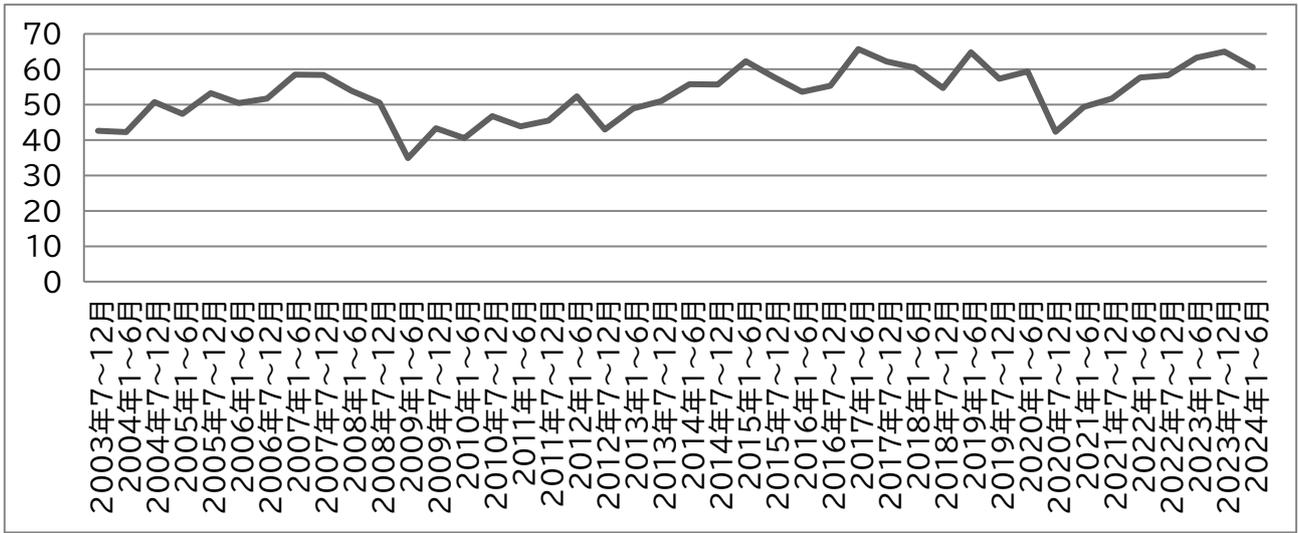
図表 3-14 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	不足する	やや不足する	横ばい	やや過剰となる	過剰となる	無回答	DI
今回 2024 年 1～6 月	6.1	42.4	39.4	12.1	0.0	0.0	60.6
前回 2023 年 7～12 月	11.4	40.0	45.7	2.9	0.0	0.0	65.0
前々回 2023 年 1～6 月	12.1	27.3	57.6	0.0	0.0	3.0	63.3

図表 3-15 DIの推移(%)



3.2.5. 2023 年下半期(7~12 月期) の資金繰りの状況(質問 14、15)

質問 14 の資金繰りの状況に関して、2023 年下半期(7~12 月期)は 2023 年上半期(1~6 月期)と比べ、「改善した」0.0%、「やや改善した」21.2%、「どちらともいえない」54.5%、「やや悪化した」21.2%、「悪化した」3.0%となった(図表 3-16, 3-17)。前回と比べるといずれの項目も横ばいであった。前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: なし
- ・ 3%ポイント以上減少: なし

となった。DI でみると 48.5%と、前回(47.9%)、前々回(47.7%)から横ばいであり、4 期連続 50%を下回った。

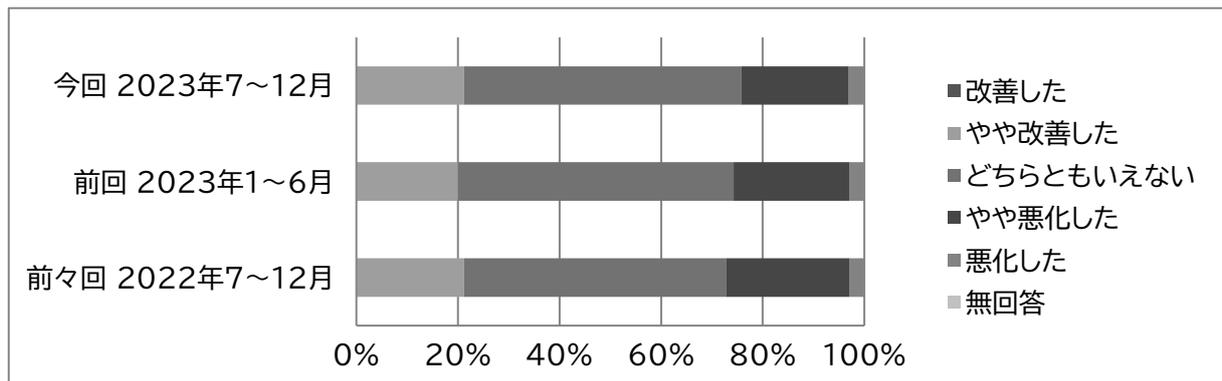
質問 15 の回答の理由(質問 14)についてみると、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(51.5%)、「売上高の変化」(48.5%)、「人件費の変化」(24.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-18)。前回調査から、特に「売上高の変化」の割合が大きく下落した。前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「無回答」(+12.1)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「売上高の変化」(-20.1)、「設備資金需要の変化」(-11.3)、「金融機関の貸出態度の変化」(-5.6)、「その他」(-5.3)

となった。

質問 14: 2023 年下半期(7~12 月期) の資金繰りの状況

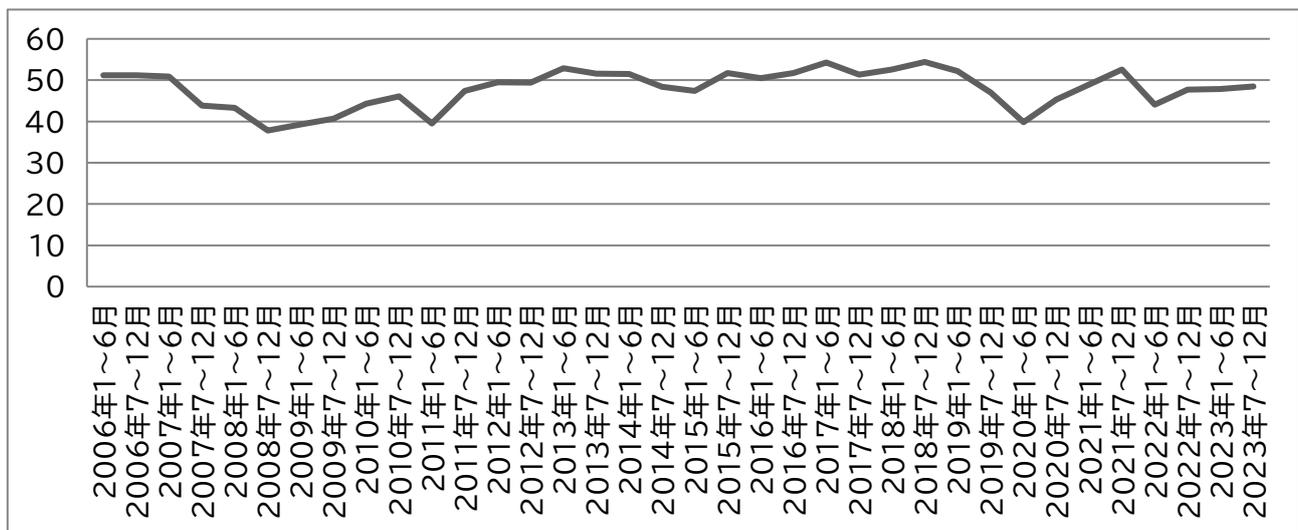
図表 3-16 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

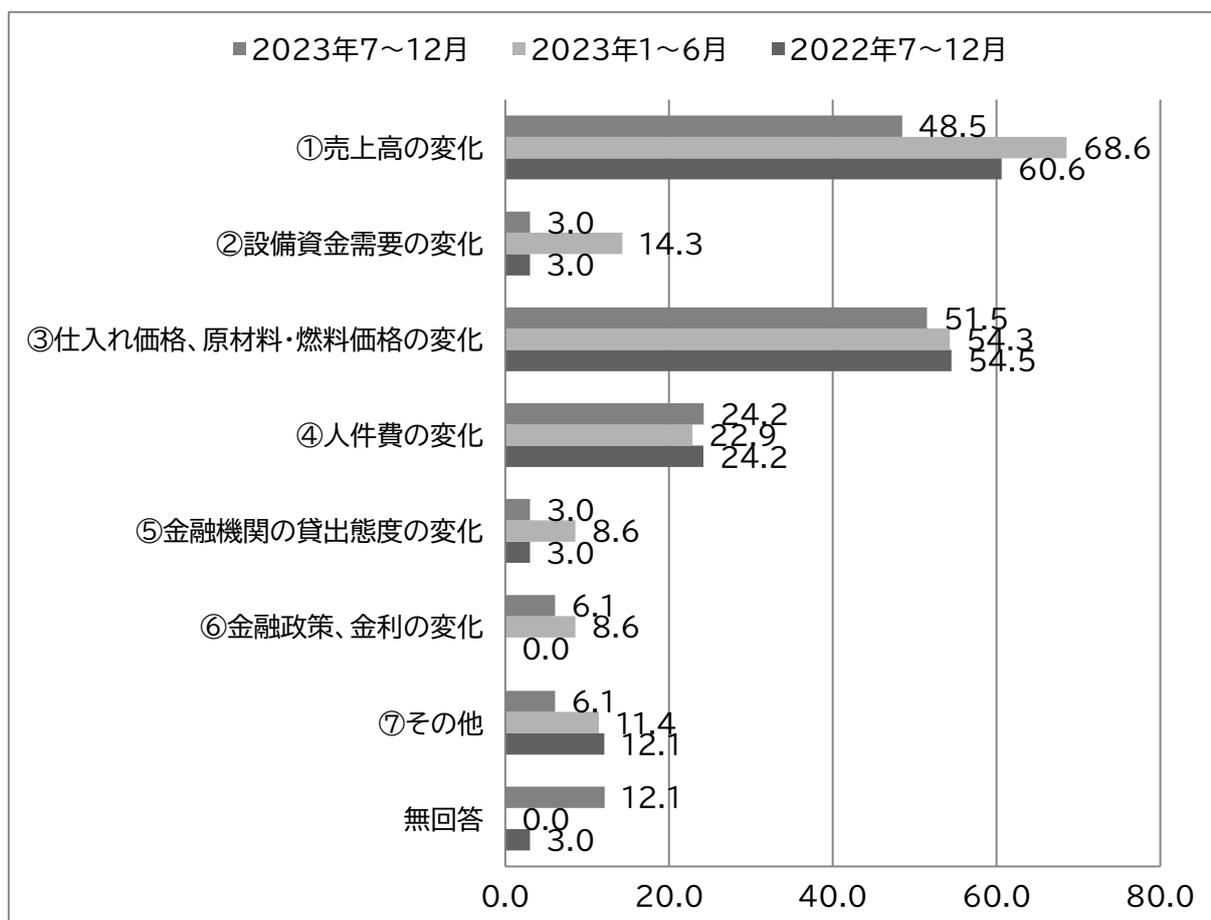
	改善した	やや改善した	どちらともいえない	やや悪化した	悪化した	無回答	DI
今回 2023年7~12月	0.0	21.2	54.5	21.2	3.0	0.0	48.5
前回 2023年1~6月	0.0	20.0	54.3	22.9	2.9	0.0	47.9
前々回 2022年7~12月	0.0	21.2	51.5	24.2	3.0	0.0	47.7

図表 3-17 DI の推移(%)



質問 15: 質問 14 の回答理由

図表 3-18 回答の割合(前回、前々回との比較を含む、%)



(%)

質問 15	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答
質問 14								
改善した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや改善した	15.2	0.0	6.1	12.1	0.0	3.0	0.0	0.0
どちらともいえない	21.2	3.0	27.3	9.1	0.0	3.0	3.0	12.1
やや悪化した	9.1	0.0	15.2	3.0	3.0	0.0	3.0	0.0
悪化した	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	48.5	3.0	51.5	24.2	3.0	6.1	6.1	12.1

(注) 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

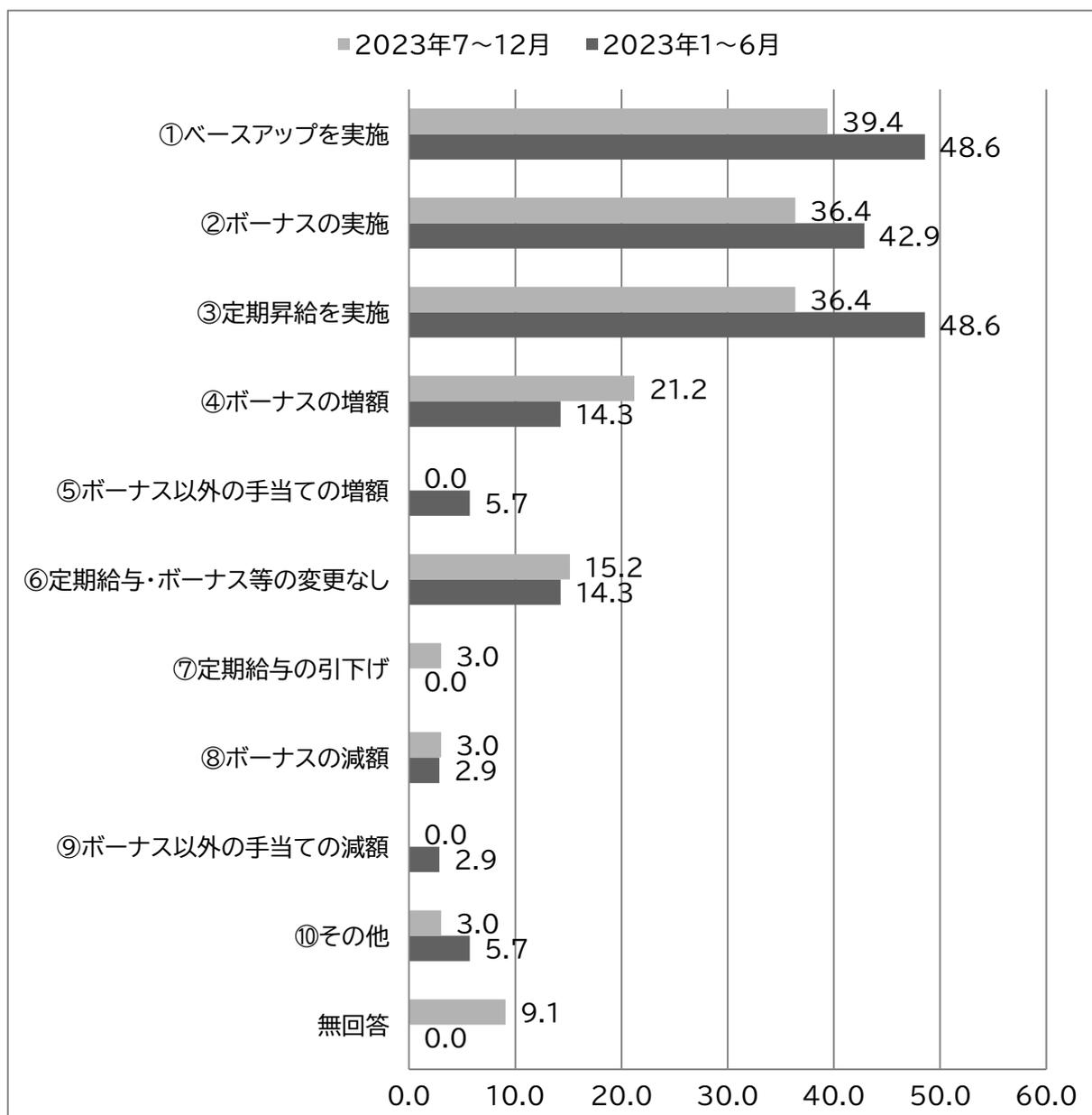
3.2.6. 賃金等の状況(質問 16, 17)

前回調査(2023年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「ボーナスの増額」(+6.9)、「定期給与の引下げ」(+3.0)、「無回答」(+9.1)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「ベースアップを実施」(-9.2)、「ボーナスの実施」(-6.5)、
- ・ 「定期昇給を実施」(-12.2)、「ボーナス以外の手当の増額」(-5.7)

質問 16: 賃金等の状況

図表 3-19 回答の割合(前期との比較を含む、%)



(注) 今回調査は 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 17: 質問 16 の回答理由

- ◆ ①ベースアップを実施
 - ・ 「雇用状況とリンクさせているので」
 - ・ 「1.5%のベース UP 実施」
- ◆ ②ボーナスの実施
 - ・ 「赤字なのでベースアップができない。」人材を確保するうえで、給与水準を見直している。
- ◆ ③定期昇給を実施
 - ・ 「人材を確保するうえで、給与水準を見直している。」
- ◆ ⑦定期給与の引下げ
 - ・ 「主力の会社からの受注が無いので。」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「従業員のモチベーション維持、向上につながるものと考え実施した。」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「・コロナ前の受注残納期が 23 年 9 月より改善し、売上が増加(回復)。24 年も引き続き同じような状況が続くため、人件費の増額。
 - ・ また、コロナ中にペーパーレス、通信などで DX 化が進み効率 UP に繋がる。
 - ・ 今後は設備投資や上記のさらなる効率 UP を行い賃金上昇につなげたい。」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「利益が上がった為、ボーナスが増額となった。」
- ◆ ③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「利益が少し上がったため、ボーナスが増額した。」
- ◆ ①ベースアップを実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「社員のモチベーションを上げるため。物価が上昇しているため。」
- ◆ ①ベースアップを実施、⑥定期給与・ボーナス等の変更なし
 - ・ 「給与規定に則っているため。」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「補助金等の申請条件のための物価高に対応。」
 - ・ 「年収ベース、賃金3%実施」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「物価上昇を考慮した定期昇給、賞与の支給率のアップ。」
 - ・ 「1.5%のベース UP 実施」
- ◆ ③定期昇給を実施、⑧ボーナスの減額
 - ・ 「2023 冬の賞与額が半減。」
など

3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問

質問 18～24 は、小山市における昨今の社会・経済情勢に関する質問を行った。以下その結果を述べる。

3.3.1. 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響(質問 18～21)

質問 18～19 では新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響とその理由についてたずねた。それぞれ、供給面(質問 18)、営業・勤務形態等(質問 19)、需要面(質問 20)の影響に分けて質問を行った。

その結果(複数回答可)をみると、まず、供給面(質問 18)では、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(27.3%)、「供給能力はコロナ禍前の状況に回復した」(24.2%)、「商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った」(15.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-20)。

前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「供給能力はコロナ禍前の状況に回復した」(+12.8)、
「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(+7.3)、その他(+3.2)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ」(-8.2)、
「コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ」(-5.2)、
「供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない」(-8.0)

となった(図表 3-20)。

次に、営業・勤務形態等(質問 19)では、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(27.3%)、「勤務形態はコロナ禍前のものに戻った」(24.2%)、「従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った」(18.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-21)。

前回調査(2023 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「勤務形態はコロナ禍前のものに戻った」(+12.8)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前の営業時間に戻った」(-7.9)、
「コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ」(-8.0)

となった(図表 3-21)。

最後に、需要面(質問 20)では、「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(24.2%)、「全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した」(21.2%)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(21.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-22)。

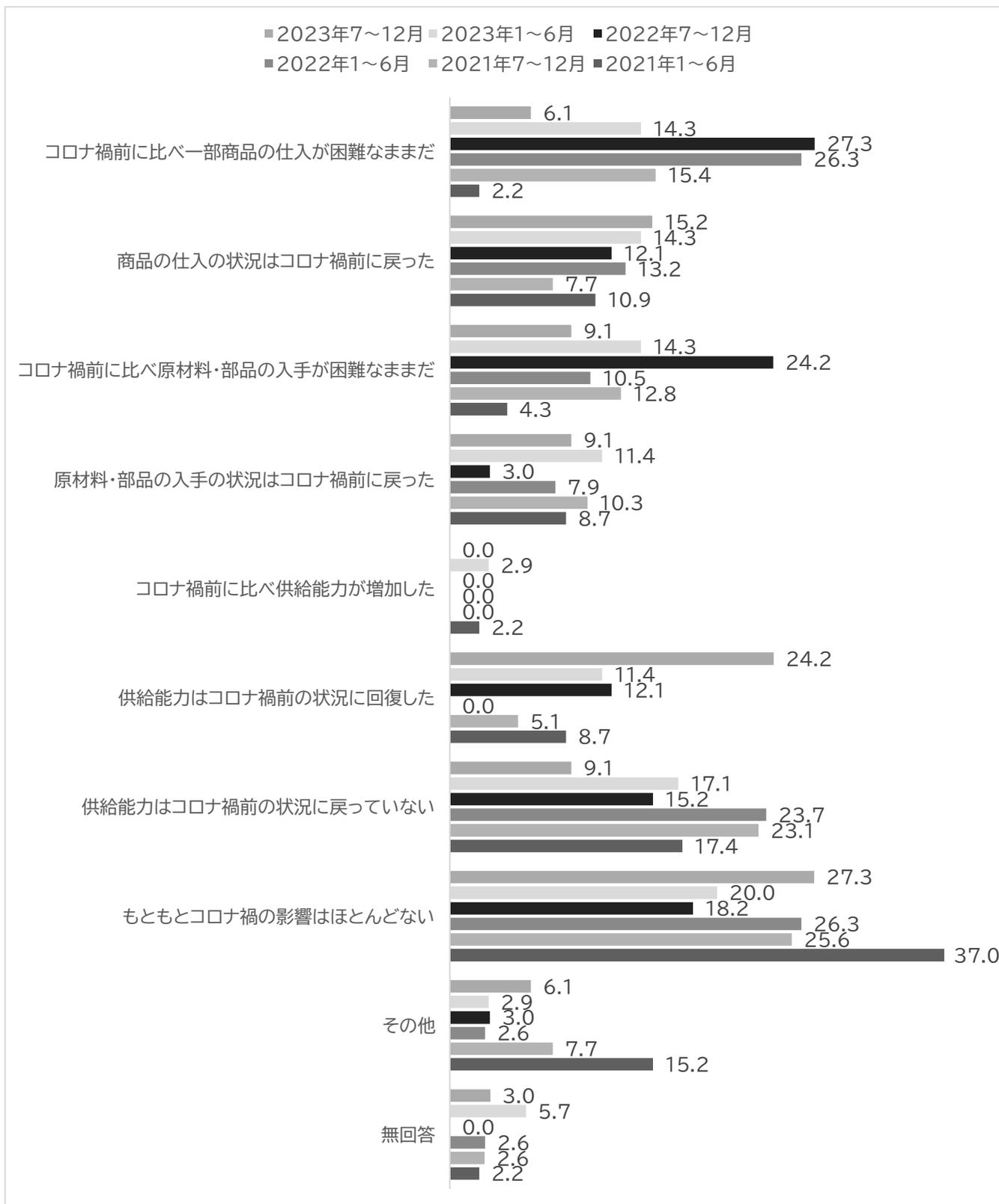
前回調査(令和 4 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した」(+4.1)、
「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した」(+3.0)、
「コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した」(+3.4)、
「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(+4.1)、無回答(+3.4)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(-7.2)、
「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」(-7.5)

となった(図表 3-22)。

質問 18: コロナ禍の影響(供給面)

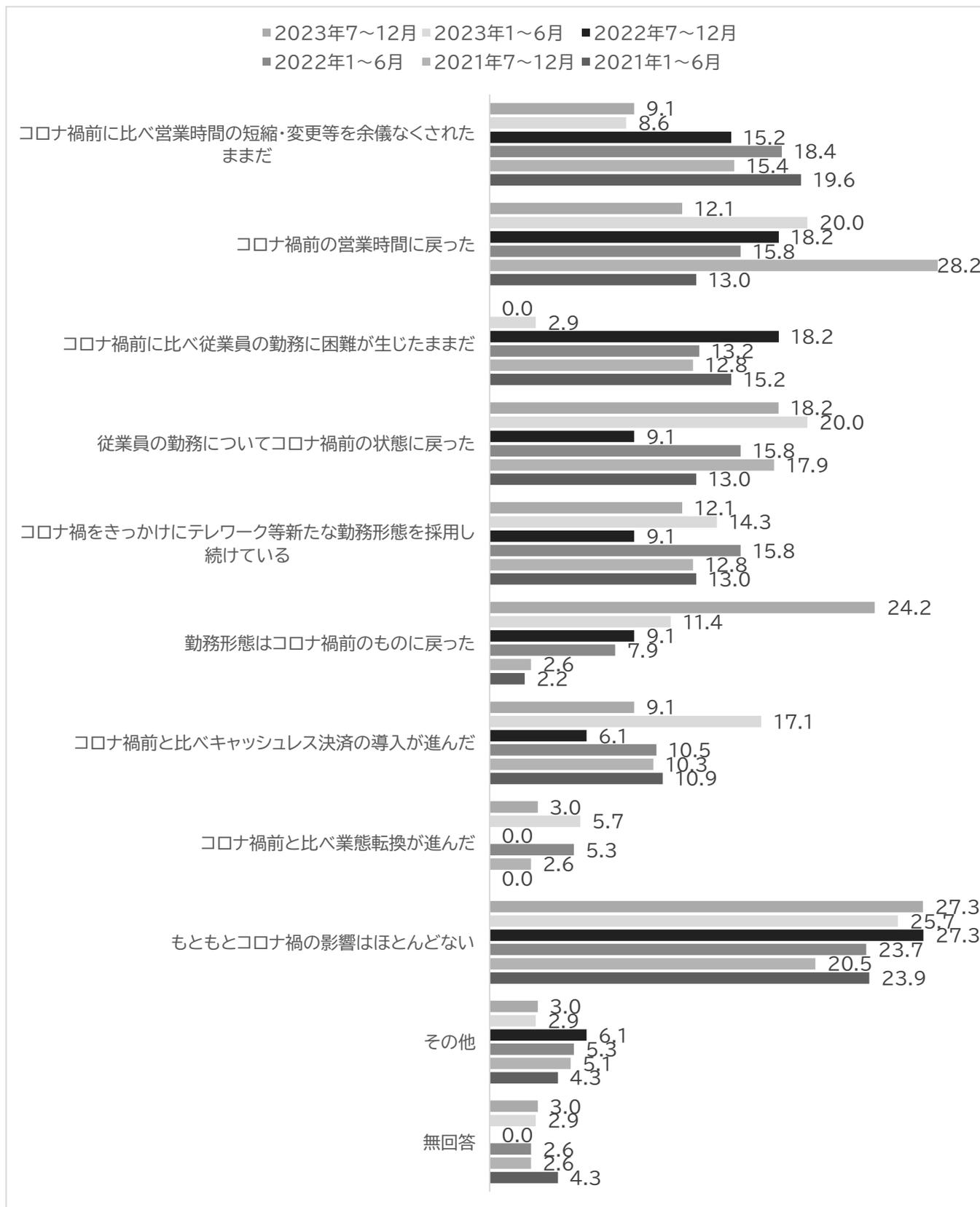
図表 3-20 回答の割合(%)



(注) 今回調査は 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 19: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)

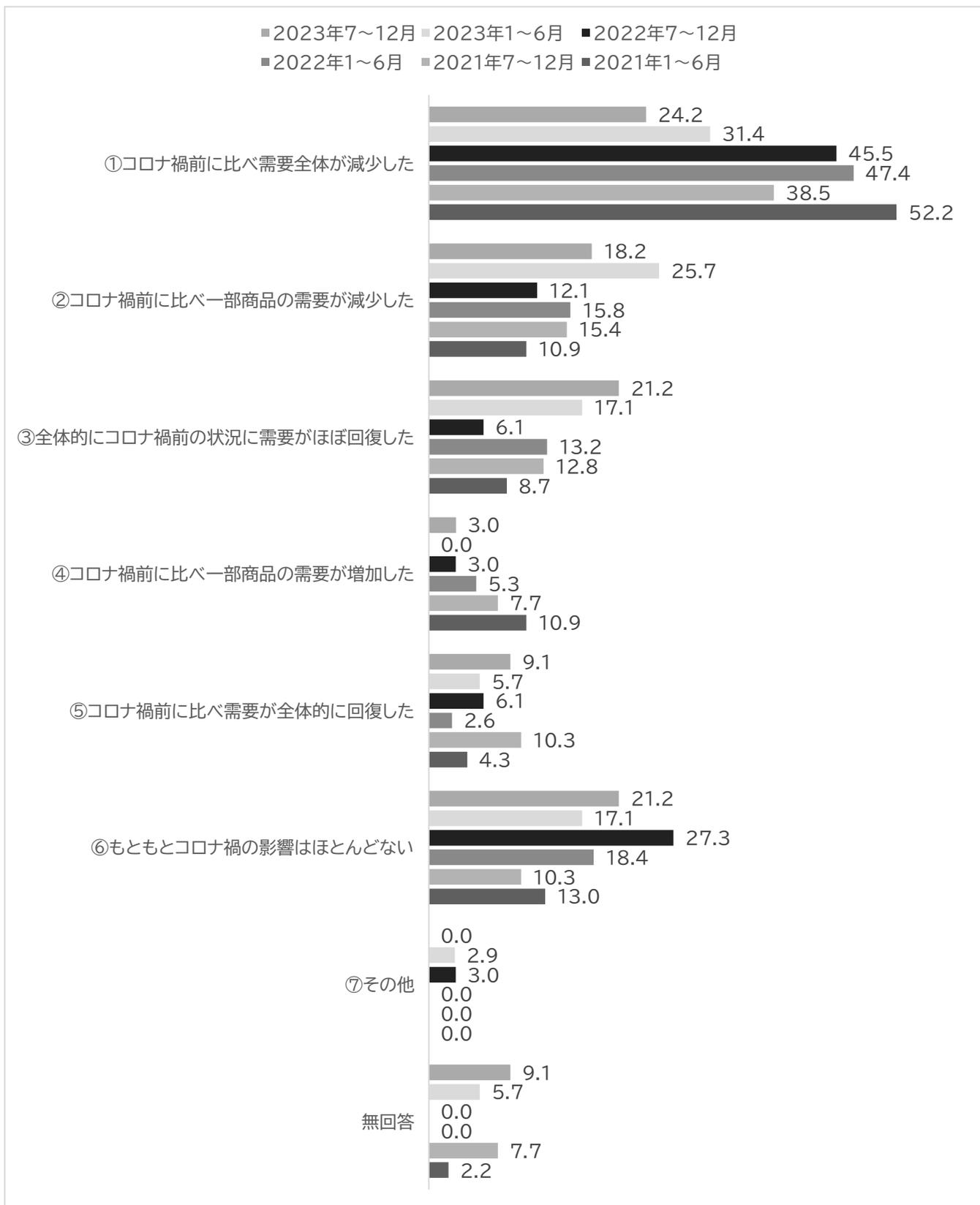
図表 3-21 回答の割合



(注) 今回調査は 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 20: コロナ禍の影響(需要面)

図表 3-22 回答の割合



(注) 今回調査は 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 21: 質問 20 の回答理由

- ・ 「宴会等会食件数は、コロナ禍前に戻ったが、会食に参加する人数が減少している。」(ホテル・旅館業、質問 18①、19⑦、20①)
- ・ 「半導体不足は解消してきているが、その余韻がある。」(流通業(小売業)、質問 18⑥、19⑤、20②)
- ・ 「材料不足等事前に手を打っていたので大きな影響はありませんでした。」(不動産・住宅業、質問 18⑧、19⑤、⑥、20⑥)
- ・ 「コロナの 5 類の変更のために、人の動きが戻り、乗客も動いている。」(不明、質問 18③、19⑥、⑦、20③)
- ・ 「小山市共通商品券の効果が令和 5 年度は半減した。」(流通業(小売業)、質問 18②、19④、20②)
- ・ 「コロナの影響で取引先の人材不足により品物の生産などが遅れたため。」(運輸業、質問 18④、19⑨、20②)
- ・ 「ケーブルテレビ、インターネット、固定電話契約であり、コロナ禍の影響はほとんどなかった。」(通信・放送業、質問 18④、19④、20⑥)
- ・ 「コロナ化時に比べ回復(コロナ禍前に近づきつつある)」(サービス業、質問 18③、19⑤、20⑤)
- ・ 「コロナ禍は特殊要因により業績は拡大した。現在はそのあおりを受けており、業績はやや悪化している。」(金融・保険業、質問 18⑧、19⑨、20①)
- ・ 「大口の受注数が減少したままの状態が続いている。」(その他、質問 18①、19⑧、20①)
- ・ 「休憩時間をずらすなど、形態を変えていたが、コロナ前に戻った。」(製造業、質問 18⑧、19⑥、20⑥)
など

3.3.2. インボイス制度への業務への影響(質問 22～24)

2023年10月1日から、複数税率に対応した消費税額の仕入税額控除の方式として、「適格請求書等保存方式(インボイス制度)」が開始された。質問 22～24 ではインボイス制度の業務への影響についてたずねた。

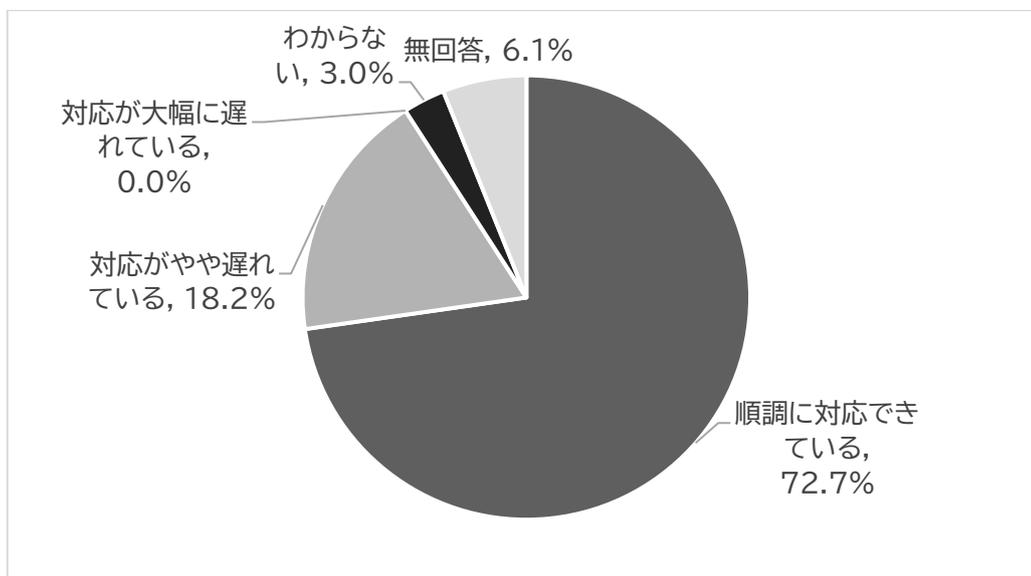
質問 22 では、インボイス制度の対応状況についてたずねた。「順調に対応できている」が 72.7%と最も高い割合であり、次に「対応がやや遅れている」が 18.2%となった(図表 3-23)。

次に、質問 23 で、インボイス制度導入に伴う懸念事項をたずねた。「業務負担の増加」(48.5%)、「取引先への対応」(36.4%)、「社内での理解不足」(24.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-24)。

質問 24 では、インボイス制度に対応するための取り組みや、現在認識している課題についてたずねた。順調に対応できているという意見がある一方で、取引企業への対応等、業務負担の増加に関する意見が多く見られた。

質問 22: インボイス制度の対応状況

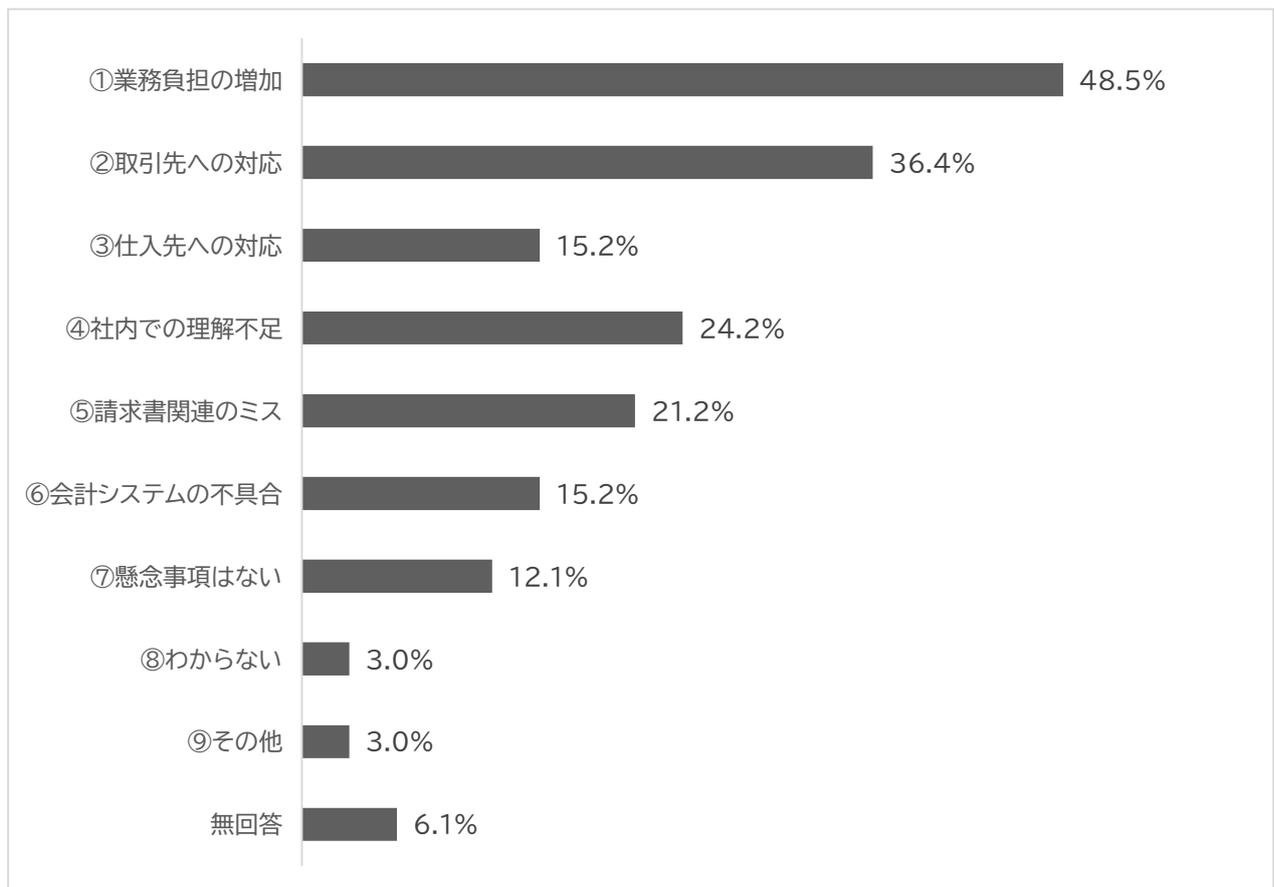
図表 3-23 回答の割合



(注)33社に対する比率

質問 23: インボイス制度導入に伴う懸念事項

図表 3-24 回答の割合



(注) 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 24: インボイス制度に対応するための取り組みや、現在認識している課題について

- ・ 「取引先においてインボイス未対応の会社への対応。」(流通業(小売業))
- ・ 「個人事業主様のインボイスの登録が遅れており、取引に支障が出てくると思う。」(製造業)
- ・ 「会計ソフトを新しく買い替えた。」(製造業)
- ・ 「まだまだアナログの管理で業務しているので、紙媒体が多いこと。」(運輸業)
- ・ 「消費税額を区分して記入する手間が増えた。」(ホテル・旅館業)
- ・ 「順調に対応しており、特に問題なし。」(通信・放送業)
- ・ 「制度は本社が作っているので問題がないが、現場の実務は非常に煩雑になっている。」(不動産・住宅業)
- ・ 「インボイス制度に登録してないが、現在は問題なし。」(サービス業)
- ・ 「明細の書き方(記入の仕方)等で、社内で混乱している。」(その他)
など

4. 小山市経済動向ヒアリング調査

2024年2月8日、小山市の経済動向に敏感な代表的業種の方々に、白鷗大学にお集まりいただきヒアリング調査を行った。業種は金融・保険業(2名)、製造業、運輸業、流通業(小売業)(自動車)、流通業(小売業)(スーパーマーケット)、不動産・住宅業、および小山商工会議所の方々である。各業界関係者の方々には2つの共通質問と業界別の追加質問、小山商工会議所の方には個別の質問にお答えいただいた。また、ヒアリング調査の実施後、白鷗大学経営学部の小笠原教授(ビジネス開発研究所長)からコメントがあった。

金融・保険業(1)

質問 1 2023 年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2024 年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5 類感染症に移行しましたが、その前後で変化がありましたら教えてください。

業種別にみると、半導体の調達が進んで、製造・生産は回復しつつある。飲食の業種では、輸送業の機会や新型コロナウイルス感染症 5 類の移行による外食機会の増加により業務用の需要が高まったことで、改善が進んだと思われる。一方鉄鋼等の素材関係の業種では、景況感がマイナスになっている。原材料・エネルギー価格の高騰を受けて、生産コストの上昇を価格転嫁しきれていない状況が続いているとみられる。非製造業では、特に建設業については、建設資材の価格高騰によるコスト負担の増加によって、景況感の悪化が大企業よりも特に中小でみられるように思われる。小売業については、行楽需要の回復によって、景況感の持ち直しがみられるように思う。飲食業も同様である。

今後の見通しについては、皆さんのヒアリングから、2024年度も全体的にある程度、緩やかに回復していく改善基調であり、個人消費は引き続き、サービス消費が牽引して、緩やかながらも増加していくと思われる。停滞している賃金実態は、年の後半になって消費者物価の上昇によって回復が見込まれることも考えられる。製造業、非製造業を含めて色々な問題はあっても、緩やかに回復してきている。

質問 2 近年は物価上昇が続き、それに伴う賃金上昇への期待が高まっていますが、貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2024 年の物価と賃金の見通しを教えてください。

金融機関を取り巻く環境は非常に厳しいところにあり、競争の激化、並びにマイナス金利の政策の継続により、依然と厳しい収益状況である。一番の問題は預金貸出金利ざやの改善が厳しいことである。収益性の維持強化が大きな課題になっている。昨日、第 3 四半期の決算が発表され、利益については前年とほぼ同様、若干の減少だが、全体的に見ると、中間の決算については、投信投資、つまり運用している資金の解約による利益の増加や、構造改革による経費の削減、あとは信用コストの削減で、利益を積み上げている。破綻に伴う信用コストも積み上げたがそこは少し下振れした程度である。一方で、先ほど申した貸出金利回りの低下による貸出金利益の減少に歯止めがかからない状況である。

こうした中で、2023年の7月から物価の上昇を受けて賃上げを行った。組合は2.0%の増加を要求したが、最終的には、一律1.5%の定例給与の見直しを図った。初任給の引き上げについては、来年度から新卒で前年対比プラス1万円という形である。

質問 3 2023 年はコロナ禍の影響で売り上げが減少した企業に対しての無利子無担保融資(ゼロゼロ融資)の返済が本格化しました。ゼロゼロ融資の返済の状況について、他地域との比較を含めて教えてください。

コロナ融資はちょうど 3 年前に行われた。ゼロゼロ融資については、金利がゼロということと保証料がゼロという据え置き期間が設けられた。最初から返済されている方もいる。金利が 3 年経ってかかってくる中で、返済が難しくなってくるのではないかと、金利負担が発生するのではないかと、といった心配は当然あるが、我々が見た中では約 10%未満の方々しかそういった問い合わせはなく、通常通りの返済が 90%を超えている。通常通りの返済の中で約 10%の方々が、金利がかかってくるということで繰り上げ返済をされた。

その後も、ゼロゼロ融資については、銀行が伴走支援を行ってきた。返済通りの支援を行うのか、もしくは 3 年が終わって 5 年という後 2 年、さらにまた据え置きができる。制度の枠内での条件変更、もしくは制度の枠を超えた条件変更というの中にはある。国がやっていた制度の中で、伴走支援的なものがしっかり拡充したということで、金融機関の方でしっかりと業績と資金繰りの確認を行っていたことが功を奏していると思われる。

質問 4 日本銀行の政策修正により、今後長期金利の上昇が見込まれます。貴社・貴店、貴業界から見て、地方金融に与える影響や今後の見通しについて教えてください。

かなりの繰り上げ返済が行われたが、銀行の法人企業向けの貸出は前年対比プラスで伸びている。小山市内も同様である。その中で多いのは設備資金の増加である。先ほどのゼロゼロ融資は運転資金だが、設備需要が非常に高まっている。コロナ禍では設備投資については検討中だったが、ここにきて実際に大口の投資が増えている。小山市内に工業団地の新しい設置がないのが残念だが、小山については進出企業からのニーズがある。今の進んでいる工業団地でお手伝いをさせていただく件が多数ある。そういった設備投資が伸び、大口の補助金もある。そうした中で金利がどう関わってくるのかについては、今まではマイナス金利だったが、これから金利のある世界が変わっていく。長期、短期プライムレートはここ 10 年ぐらい変わっていない。短期プライムレートを中心とした形で変動金利を使っているが、実際には金利が上昇してない中で、銀行がお客さんにどのような説明をしていくのか、金利が上がった場合にどのような負担、コストがかかってくるのかをしっかりと説明していく必要があると考えている。

このままやっていると銀行は赤字である。それは当然のことながらわかっていたので、現状では短期プライムレートではなく、市場金利連動型の貸出を行っている。これは Tokyo Interbank Offered Rate で TIBOR(タイボー)と言われているもので、こちらと長期貸出について行った形で、かなり敏感に毎日動いている。設備資金投資については長期の大口の資金となるため、今後、変動金利で利用されている方については、その部分の金利ヘッジが必要になる。例えば 10 億円を 20 年で利用されている方については、その部分のうち 5 億円を固定で金利スワップを使ってヘッジを行いましょう、と。一方、変動で今後上昇している部分もありますけれど、半分の 50%分は固定金利に切り替えをしまししょう。そのようなことを提案している。また、提案していく必要があると考えている。とは言っても 20 年間の固定金利はなかなか難しいので、10 年間で固定しまししょう、というようなことをやっている。

金利がある時代の中での答えとして、お客様に対して金利負担の増加は、非常に懸念材料ということになるが、金利上昇をしっかりと交渉して、そのお客様にその元手でもっともっと利益を上げていただくという取り組みをしていく。銀行ではこういう中で、資金繰り支援、あとは連携支援、本業支援ということで、この 3 つを柱に、資金繰り支援は運転資金、連携支援は設備資金、本業支援は売上であるとか売上の増加とか、人の問題、このようなことをやっている状況である。

金融・保険業(2)

以下、質問3と質問4の回答をいただいた。

質問 3 2023 年はコロナ禍の影響で売り上げが減少した企業に対しての無利子無担保融資(ゼロゼロ融資)の返済が本格化しました。ゼロゼロ融資の返済の状況について、他地域との比較を含めて教えてください。

小山市は他地域と比較して遜色のない水準と捉えている。この質問が出た理由はおそらく、コロナ資金の返済が始まったことで倒産が増加しているのではないかとといった報道があるためだと推察されるが、私の意見では、コロナ資金の返済が始まったことは要因の1つではあるが、主因ではないと考えている。では主因がどこかと言うと、コロナ前、コロナ禍、コロナ後という変化が、ここ数年で急激に起こった影響、それが一番ではないかと考えている。コロナ前からコロナ禍のところ、何が大きい変化だったかと言うと、需要が大幅に減った。一部を除いては、需要の減少に加えて、原材料高が急激に起こった。コロナ資金というのはそのコロナ前からコロナ禍に、対策資金として政府の方で取った資金で、今何が起きているかと言うと、コロナ禍からコロナ後になった。コロナ前からコロナ禍にコロナ資金を使ってしまった、使い切ってしまった企業の、コロナ禍からコロナ後への対策に対する資金が枯渇してしまったということで倒産が起きている。コロナ資金だけを捉えると、そのように考えている。コロナ禍からコロナ後については、需要は一定の回復をしている。ただ、原材料高が続いている。それに加えて、ここにきて人件費が上がっている。色々な環境変化が急激に起こっている中で、もうこのコロナ前からコロナ禍にあったコロナ資金や同様のものがないので、資金手当ができないというのが一番の問題ではないかと考えている。

質問 4 日本銀行の政策修正により、今後長期金利の上昇が見込まれます。貴社・貴店、貴業界から見て、地方金融に与える影響や今後の見通しについて教えてください。

金利の上昇局面には違いないと思う。日銀がマイナス金利を解除するということで、これをマスコミが大きく捉えており、金利が上昇するのではないかと、確かに上昇すると思うが、アメリカのような上昇が日本で起きる、といった報道がなされているがどうなのか。

アメリカでは、FRB が四半期毎に金利を上げ、急激な上昇が起こった。一方で、日本がマイナス金利であるために、金利差が大きくなり、為替が大幅に円安になった。そして大幅な円安により原材料が物凄く上がった、というのが今の世の中だと思う。日銀や政府が何をやりたいかと言うと、金利の日米の差は抑えて、為替相場を安定させたいというのが一番だと思う。1年前からマイナス金利を解除すると言っているわけだが、おそらく今年にようやくマイナス金利が解除になると思われる。ただ、物凄く金利が上昇するかと言うと、そうではない部分も可能性としてある。ただ一方で、今年度の日本の政府の予算は、今までとは異なり、国債の利払いに関する予算が組まれている。つまり、日本政府は、マイナス金利の解除による金利の上昇分を、国債の利払いの上昇と捉えて、その分の予算を組み始めている。そのため、金利が上昇するか上昇しないかといえ、上昇する可能性が非常に高い。ただ、それが急激に上昇するかと言うと、この部分は三角かなと考えている。

製造業

質問 1 2023 年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2024 年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5 類感染症に移行しましたが、その前後で変化がありましたら教えてください。

2022 年はその前のコロナの影響が非常に大きかった中で、復活というか回復があった。そのまま順調にいくと思いきや、2023 年度は一転して非常に厳しい状況になっている。これは業種、お客様の業態によってかなり大きな差があり、価格の上昇が今でも続いており、それほど激しいわけではないが、まだ先も値上げがあると言われている。部品の供給等については、かなり解消されてきて、自動車の生産自体はかなり回復してきているように思うが、私達のお客様は、生産というよりも、その前の開発とか金型生産とか、そういったところである。開発では思うように進まないとの話、金型生産ではかなり厳しかったという状況を聞いている。また工作機械関係のお客様は、2021 年 2022 年度は非常に良かったが、2023 年度は半減以下という状況で、弊社としては大変苦勞をした。半導体関連では、TSMC(台湾積体回路製造)の工場の建設のように景気のよい話があるが、実際の生産やそれに対する半導体製造装置関係というのは、今裾野が広いのだがそちらは需要がかなり厳しい状況で、この辺が影響して厳しい 1 年だったと感じている。

2024 年度は、まだ見通しがきかないが、少しずつ明るくなっていくのではないかという感覚を持っている。実際、自動車関係も生産はかなり落ち着いてきている。開発はまだまだ EV(電気自動車)化の流れが生産にどのように影響していくのか、各社の足並みが揃っていないところで、ダイハツや豊田自動織機というような大きな問題もあり、ますます不透明なところがあるが、ホンダやスバルが少しずつ動き出しているという話もある。半導体は、秋以降には回復してくるという期待感があって、そういう製造装置の関連会社からの工作機械の発注というの、かなり要求がある、計画があるというようなことを聞いているので、おそらく後半にはかなり回復してくるのではないかという期待を持っている。

質問 2 近年は物価上昇が続き、それに伴う賃金上昇への期待が高まっていますが、貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2024 年の物価と賃金の見通しを教えてください。

物価上昇、賃金上昇に関してコロナ後の大きな変化というのは、弊社としては感じていない。世間で賃上げということが連日言われており、実際に大手を中心に大幅な賃上げがされていると言われている影響もあり、上げざるを得ないという風潮があるのではないかと思う。実際弊社にしても、そういう情報が蔓延してくると、転職というのがよぎってくるのか、退職者もかなり出た。そういう人を防止する、あるいは補充をするためには、やはり賃金を上げなくてはならないというプレッシャーが非常にある。ボーナスについても業績から言えば、かなり厳しく出さなくてはならないところを、そういうことも考慮して、かなり無理して出している。また、人がいない、どこにも誰もいないというイメージさえあるくらい、非常に採用難だと思っている。

2024 年の見通しについては、この傾向がますます続いていくと思うので、物価自体は、今までが急激な上昇ではなくても、緩やかに上昇は続いていくのではないかと感じている。そういうところで賃金の上昇というのは、大手を中心に進んでいくというように思わざるを得ない。それに合わせられる中小企業もあると思うが、それ以下の零細企業やある程度の規模でも上げることができない会社との差がますます激しくなって、従業員の退職や採用難に関して格差がますます激しくなってしまうのではないかと懸念している。

質問3「2024年問題」に関して、貴社・貴店、貴業界では、現在どのような問題点を認識していますか。また、今後、どのような対応を計画しているのか教えてください。

流通の2024年問題については、まだどのようになるのか予測がつかないが、普通に考えれば、仕入れ価格に反映される可能性が十分にある。また、我々が発送する品物の運賃が上がり、それによるコストアップが見込まれる。これをお客様に価格として転嫁できればよいが、転嫁できない場合には負担増になることを心配している。それともう一つは、人手不足による納入期日の延長である。納期の増加については、「どこも同じだから1日プラスしていいよ」というようなお客様であればよいが、「そんな遅いんじゃ、もっと早いところに頼むよ」と言いかねないお客様がいるので、そういった場合に運送便で発送していたのを自社便で出すとなると、その分のコストアップや配送する人がいないというようなスパイラルな問題が広がっていくような気がしている。

質問4 中国経済の景気の先行きが懸念される状況ですが、貴社・貴店、貴業界では、どのような影響を受けていますか。また、今後の見通しについても教えてください。

中国経済の景気の先行き・影響は、コロナ以降、コロナよりも前かもしれないが、中国とアメリカがもめ出しから、中国からアメリカへの輸出が厳しくなったのが一つ。それから中国国内の景気の減速がいろいろ国内問題、貧富の差とか不動産バブルなど、色々あると思うが、そういったものの景気後退の影響がかなりあるのではないかと思う。直接中国に輸出しているような品物、あるいは日系企業が進出してそこでの設備として、日本の私達のお客様が製作したものを輸出するということが以前はかなりあったが、最近そういう話がかかなり減り、そういうところで我々は影響を受けている。この問題は政治的なものも絡むため、簡単には解決できないのではないかということで、今年2024年についてもかなり心配である。なかなか中国とアメリカはすぐには仲良くできないのかもしれない。また大統領が誰になるかによって違うので、予測不能である。

運輸業

質問1 2023年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2024年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5類感染症に移行しましたが、その前後で変化がありましたら教えてください。

2023年、業界全体としては、コロナ禍中とほとんど変化は見られなかった。2023年5月、新型コロナウイルスが感染症法上の5類になるということで、人が多少戻ることを期待したが、その中での物価高、それから燃料が上がったりといった影響で、若い人は多少市内を動いていたようだが、我々のタクシー業界では、大体利用される方は交通弱者の老人であったり、会社に出張で来た人を運送するという形であるため、ほとんど増加傾向にはならなかった。

ただ、栃木県内でもインバウンドとかそういう方が来られるような日光などは、かなり売上が上がったと聞いている。そのような観光地、インバウンドが来るところはいいのだが、一般のところでは、中高年の方が多く、そういった方は団体で行くのは怖いということで、個別に自家用車で観光に行かれる方は増えているが、団体で観光バスというような行動はまだまだ進んでいない。学校の部活といったものは5月以降開始され、そのような送迎等々についてはかなり戻ってきている。

弊社としては、7月ぐらいから乗務員が11名ほど増加し、2023年8月に小山市でタクシー会社が1社廃業したこともあり、夜の部分で前年より1割程度、営業回数が増加した。全体的には、ほとんど変わっていないというのが現状である。

質問 2 近年は物価上昇が続き、それに伴う賃金上昇への期待が高まっていますが、貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2024 年の物価と賃金の見通しを教えてください。

2024 年の見通しについては、コロナ禍における特に中高年の家飲みの定着が大きく、中高年の方の飲み会が極めて少ない。若者は結構居酒屋とか出てきているのだが、ほとんどタクシーは使ってもらえない。中高年の方、いわゆる交通弱者の方にとっては食品の値上げとか、燃料費の上昇とか、そういった物価高を反映して、利用者が増える要素があまり見受けられない。大体予想だが、コロナ禍前の 7 割から 8 割ぐらいの利用者、営業回数というように見ている。ただ売上については、昨年 2023 年 12 月に運賃改定があり、運賃が 10%ほど、観光バスについては昨年 10 月に 3 割ぐらい運賃が上がっている。そういったことで、回数は少なくともその運賃値上げの部分で、売上はおそらくコロナ禍前と同等近くまではいくのではないかと考えられる。

賃金は、タクシーの場合はほとんどの会社が歩合制をとっているため、運賃が上がって同じ仕事をすれば、1 割上がって給与も 1 割増えるので、食い合いをしなければ、給料は上がるという形である。内務者については離職されては困るので、昨年、この夏もコロナ禍前近くまで出した。物価が上昇し、社会保険料なども上がっていることで実質賃金が下がってしまうために、給料を 3%ほど上げている。

質問 3 「2024 年問題」に関して、貴社・貴店、貴業界では、現在どのような問題点を認識していますか。また、今後、どのような対応を計画しているのか教えてください。

2024 年問題に関して、タクシー業界については、コロナ禍に仕事量が減少して、雇用保険の補助金をもらったりする関係で時短をしたり休暇を増やしたりといったことをして、どこの会社もかなり勤務時間を短くしており、コロナが終わったからといって急に勤務時間を戻すといっても、3 年働いていないとなるとなかなかそういう状況にはもっていけない部分もあり、働き方改革関連法の休息時間の確保については完全に改善基準をクリアしている。

一番問題になるのは、トラック業界の荷待ち、早めに交通量がないときに出る、あるいは高速代が安い夜中に走って、工場の前につけてそこで休憩を取って、工場が開いてから荷物を入れる形は、拘束時間がかなり長くなっているの、それができなくなることで、そのような貨物系の業種、運送業はかなり厳しくなるのではないかと思う。

質問 4 2024 年 4 月からライドシェアが一部解禁される見通しです。このライドシェアの一部解禁や、ライドシェアの全面解禁に向けた動きが貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。また、何か対応策を実施・検討されているのであれば教えてください。

テレビや国会質問でも話題になっているライドシェアに関しては、そもそも仕事量がないのに配慮し合うというのがどういうことなのかと思う。確かにタクシーがない、廃業してなくなったところとか、そういったところは理解できる。それから東京については、別格な都市なので、お客さんが乗れないというのはわかるが、地方都市では逆に仕事がなく困っている位である。4 月からタクシー会社の一部解禁ということで、タクシー会社がライドシェア、いわゆる白ナンバーの車で運送してもよいとするようだが、どういう縛りがあるのか、雇用関係だけで細かいところはまだ出ていない。タクシー会社としては白ナンバーで走らせてもよいということになれば、今あるタクシーを白ナンバーにして走らせれば、車検は 2 年に 1 回で済み(青ナンバーは毎年)、自賠責保険料がタクシーよりも白ナンバーの方がかなり安いので、金額としてかなり効率化でき、そういった方向で乗り出す会社が出てくると思う。今言われているのはタクシーの保有台数と同じ量数の白ナンバーを抱えてもよいというような情報なので、そのままタクシーを白ナンバーに変えてしまうとか、半分ぐらい変えてしまうとか、そういったことで経費削減ができる可能性はあるかもしれないが、国土交通省がどのように判断するかである。

我々が一番危惧するのは、完全に解禁となったときに、代行業が、これまでは車に客を乗せられなかったが、客を車が置いてある場所まで代行の車に乗せて行って、そこから車も輸送できるとなると、そこに行くまではタクシーと同じ料金を取ってその先は代行の運賃でまた取れるということで、そういったことをされてしまうと夜の部分でタクシーは全滅してしまうのではないかという気もしないでもない。その辺が一番業界としては心配である。

流通業(小売業)(自動車)

質問 1 2023 年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2024 年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5 類感染症に移行しましたが、その前後で変化がありましたら教えてください。

自動車業界は、コロナ禍で、特に半導体部分の部品が無いことで、新車の納期がかなり遅れていたところから、こちらが入ってくるようになり、2023 年度中頃から需要が随分回復したが、先日、能登の大地震が起きた²。自動車の場合、色々なところで、特に国内では主要部品、半導体やエンジンなどの部品を作っている。海外では、比較的どこで作ってもある程度の品質を保てるものを作るような形態になっている。

能登半島地震は、我々はそれほどの影響はないと思っていたが、自動車は1つの部品がないと作れないので、納期では 2 月、3 月、4 月で 3 ヶ月位ずれてしまったというのが現状であり、今は先行きを読みにくい。新車は、2023 年は部品が入ってきたということで、コロナ禍と比べると非常に良い決算となり、前年度、コロナ期よりも、売上、その他も含めて良くなっている。5 類への移行は、2、3 月ぐらいから移行されますという形で店への来場が増えた。マスクに関してはそのままだが、昔あった衝立といったものは外している。

中古車業界は、トップの中古車メーカーがもう営業してないような状態になっており、全体的には厳しく、大手の中古販売業者は厳しいと思うが、ディーラーの方は後半から回復している。全体的には中古車ビジネス自体がパワー不足ということもあって、非常に単価が上がり、そういう意味で直販が伸びたかというところでもなく、中古車業界全体としては、前年よりも減少から普通に戻ったという言い方がよいのではないかと思う。

質問 2 近年は物価上昇が続き、それに伴う賃金上昇への期待が高まっていますが、貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および 2024 年の物価と賃金の見通しを教えてください。

世間で言われているように、円安がずっと続いており、最近のニュースで自動車業界のいくつかの企業が最高益だと報じられた。ディーラーは最高益というほどではないが、社員がそのようには見ないため、当然賃上げをせざるを得ないということで、2023 年の賃金はベースアップと普通のアップ、今年に関しても、やはり上げざるを得ないということで、継続して賃金を上げていくための体制の構築に向かっている。また、休みをきちんと取れること、年間休日、環境面などが、採用にも大きく影響するため、いかに効率よく営業していくかが今後の課題になると考えている。

質問 3 「2024 年問題」に関して、貴社・貴店、貴業界では、現在どのような問題点を認識していますか。また、今後、どのような対応を計画しているのか教えてください。

2024 年問題に関しては物流関係だと思うが、コストが高くなることは否めない。それから時間がかかる。この2つに対処しなくてはならないということで、幸いにして車は今日注文して明日納めるということはなく、納

² 能登半島地震 2024 年 1 月 1 日、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が発生した。

車までの時間がかかるため、その辺のやり取りをしっかりとやっていけば何とかなるが、車が来るか来ないかの予定となると、在庫を抱えておかないと商売に支障をきたすことになりかねない。当社としては、在庫を抱えられるような形にすることと一緒に、車6、7台、マンモスという形で箱で運ぶ場合と、1台1台運ぶ場合とでは、単価が2倍以上違うために、なるべくマンモスで運べるような拠点、整備センター、これは一応あるにはあるが、将来に向かってもう1つ作らないといけない。中古車の下取りも同じようなことが言える。影響としては、カバー、リカバリーできる企業とできないところとで相当差がついてしまうと思う。

EV(電気自動車)化に関しては、昨日のニュースで、2040年までに新車販売をすべてEVとFCV(燃料電池車)にするという企業目標の話があったが、実際の昨年のEVの比率は2%である。タイは1.何%から13%ぐらいまで上がっている。日本の国内事情からすると厳しい面もあるので、こちらに関して、これからどうなっていくか。当社もEVにしなくてはならないとか、2030年までに設備を整えなくてはならないとか、準備はしている。ただ、電気自動車が売れているかという、ほぼ売れてないのが実情なので、今高いから売れてないというのが一番だと思うが、日本のメーカーと言えど種類が出揃っていない。これからそういうものに対する準備をしていかないという状況である。

質問4 コロナ禍以降、サプライチェーンの供給制約が問題となっていました。供給制約に関して、貴社・貴店、貴業界における2023年の状況と今後の見通しについて教えてください。

コロナ禍におけるサプライチェーンの供給制約の問題に関しては、代表されるのが半導体であるが、供給制約を行っていたことが、物凄い納期の遅れを招いてしまった。メーカーは在庫をもたないようにしてきたが、在庫を持たないが故に車が完成せず出荷できないというのが、コロナ禍から去年の中盤ぐらいまで進んでしまった。メーカーが在庫を持っているのもなかなか難しいが、リスク防止のために、万が一に対する備えも検討していく必要があると考えている。

流通業(小売業)(スーパーマーケット)

質問1 2023年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2024年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5類感染症に移行しましたが、その前後で変化がありましたら教えてください。

2023年の売上は、2022年と同様である。ただし、客数では98%であり、買い上げ点数に関しては、大体2023年が8点で、昨年では8.9とか9点であった。現在、物価の上昇が影響して、商品の値段が上がっているため、その分の売上は確保されているが、お客様がシビアになり件数が減っている。客数が減っているのは、週に3回とか4回来ていたのが週2回位になっているためと考えられる。

2024年度の見通しは非常に厳しいと考えている。今ちょうど、予算組みが始まっている。3月から2024年度という流れで、2023年から大体102%の予算である。会社は物価上昇がそのまま続くという考えで、売上を上げてくださいというところである。客数が戻らないとどうにもならない部分があるので、営業としては頑張らなくてはならないと考えている。

質問2 近年は物価上昇が続き、それに伴う賃金上昇への期待が高まっていますが、貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および2024年の物価と賃金の見通しを教えてください。

賃金については、パートタイマーで7%、正社員も4.85%上げる。それは大々的に謳っているのだから上げざるを得ないが、人件費が非常に膨れ上がる予算になっているので、それ以外を抑えていかなくてはならないと思

っている。他の企業もおそらく賃上げを考えていると思うので、賃上げがあつて、お客様にどれだけ買っていたのかということと、あとは従業員である。対応を進めているが、2023年は苦戦した。今は定年を75歳まで引き上げている。辞める方がいると若い方に入ってもらうと対応しているが、なかなか来ていただけないのが現状である。75歳まで残っていただけることは非常に有難い話だが、今後、世代交代をさせていかなくてはならないが非常に難しいところである。

質問3 2024年問題に関して、貴社・貴店、貴業界では、現在どのような問題点を認識していますか。また、今後、どのような対応を計画しているのか教えてください。

2024年問題は物流の問題で、昨日、配送業者から料金を上げるという申し出があつた。それは致し方ないと考えているが、商品の搬入で便数を減らすことになり、仕分けが大変になるという影響が出る。また、早朝便の時間が4時からであったのを3時半からとすることになり、早く来てもらえるよう、今は面談中であるが苦戦している。どこの企業も大変なので致し方ないのかなとみている。

質問4 貴社・貴店、貴業界での、近年のキャッシュレス決済の動向について教えてください。

自社でキャッシュレス決済のサービスを提供しているが、決済率は、全社で売上に対し3.56%であり、小山店だけでは2.45%である。地域性的な問題も当然あると思うが、小山店は60代の方が非常に多いため、なかなかキャッシュレスといっても難しい。支払いが現金派のお客様が非常に多いので、なかなか進まないのが現状だが、会社としては進めていくところである。

不動産・住宅業

質問1 2023年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2024年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5類感染症に移行しましたが、その前後で変化がありましたら教えてください。

2023年に関しては比較的良好な売上进行ることができたと思っている。2024年に関してもそれを継続していけたらと考えている。コロナが始まって、我々の業界は比較的ダメージを受けるよりは恩恵を受けることが多かった部分があり、コロナで都心にいた方が移住するケースが増えたり、あるいは集合住宅から一軒家という移りもあつたので、その点からも、あまり大きく売上が落とすことなく継続していったように思う。

2023年5月に何か明確に変わったということはないが、移住のケースはコロナ前後でかなり変わってきたと感じる。東京の方々が小山に来るケースは非常に多く、東京から移住する場所を考えていったときに神奈川、埼玉、千葉辺りというのは土地も高くなかなか手が出ないようなエリアになってくるように思う。千葉のちょっと田舎の方とか、埼玉の田舎の方に行つたとしても、そこまで利便性が良くなかったり、土地代もそれなりにしてしまうが、この小山市という場所は、東京へのアクセスということで新幹線も通つていて、比較すると土地の価格が安い。

質問2 近年は物価上昇が続き、それに伴う賃金上昇への期待が高まっていますが、貴社・貴店、貴業界へ与えている影響、および2024年の物価と賃金の見通しを教えてください。

物価上昇が続いて我々社内の給与体系なども変わってきている。特に女性が辞めないようにだとか、技術系の社員に関しては、待遇がかなり変わってきた印象がある。物価が上昇して、住宅の価格も非常に上がってきている。そのため昔の感覚で住宅の検討をすると本当に金額が全く違って驚く方も多いが、それでも給料がし

っかり上がっていけばいいなというように思っている。少なくとも我々社員が自分の会社の家を建てられないようにはまだなっていない状況なので、そこは幸いなのではないかとと思う。

質問 3 日本銀行の政策修正により、今後長期金利の上昇が見込まれます。貴社・貴店、貴業界から見て、この政策修正が、住宅ローンの変化と住宅販売に与えている影響や今後の見通しについて教えてください。

住宅ローンの変化と住宅販売に与えている影響については、パワービルダーと呼ばれるような、地域に根ざした分譲住宅の会社は、かなり販売に苦戦しているのではないかとと思う。低価格帯で勝負する会社は金利が上がることによるダメージが非常に大きく、また競合も増えてきているので、かなり苦戦しているような印象である。当社としては、住宅ローンの影響を大きく受けまいと意識をしており、住宅の付加価値や 6000 万以上の住宅に力を入れて、提案の勝負で、価格での勝負にならないようにして勝っていこうとやらせてもらっている。大体月に 1 件か 2 件、7~8000 万位の住宅が建っている。特定のエリアで建てるケースがあったり、ご紹介でつながっていったりすることで、何とか現れている印象である。

質問 4 「2024 年問題」に関して、貴社・貴店、貴業界へ与えている影響について教えてください。また、この問題に対してどのような対応を計画しているのか教えてください。

社内では技術系の離職がかなり問題になっている。社内の制度を使って資格を取って、資格取った瞬間に辞めて公務員になってしまう人もいるので、そういう人を引き留めなくてはならないということで、以前は、現場の監督は、土日も変わらず出勤し、休みもなく出勤というケースも多かったが、今は働き方改革を進めている。あとは現場の職人や大工もどんどん減っていった状況なので、人材確保に力を入れている。まずは現場のイメージを改善していこうと、最近、制服をアパレルの会社とタイアップして作り、女性の監督や現場の職人が増えるようにという取り組みを行った。また、会社として大きく力を入れているのは、工事の平準化である。繁忙期があって閑散期があるというように仕事がなくなってしまう時期があると、給料の安定化につながっていないため、会社の方では工事はこの時期はこまめというように、家が完成するまでの工事を平準化させている。あとは年に 1 回、職人の大会のようなものを行い、職人の方々が腕を競い合うことにより、イメージの改善や人材の募集につなげていこうとする取り組みを行っている。

小山商工会議所

質問 1 商工会議所から見た小山地域の景気とその見通し、および地元企業の経営課題について教えてください。

商工会議所では、四半期に一度、小山市内の景気動向調査を行っている。質問に対してはこれらを元に回答する。

5 類に引き下げられてから、個人消費が拡大してきて、特に飲食やサービス業を中心に、売上につながっているという回答が非常に多かった。また飲食店については、コロナ 5 類後、初めての忘年会・新年会があり、飲食店では宴会の予約が非常にたくさん入ってきて、あるお店では、コロナ禍よりも客が多いといった声もあった。一方で、宴会のスタイルが大きく変わり、コロナ前と比べて、少人数になった。それと時間帯、滞在時間が短い、またアルコールの消費も少ないといったように、コロナ前と宴会のスタイルが随分変わったと聞いている。また、飲食業の方の話では、特に原材料が高く、価格に転嫁したが、なかなかそれを転嫁しきれないということで、非常に利益確保が難しいといったところもみられた。

小売店については、夏物商品は順調に推移したが、暖冬により秋冬の商品が非常に売れ残ったと聞いている。また物価の高騰により、商品の仕入れ価格がかなり上がってしまったということも聞いている。製造業では半導体不足が解除され、自動車関連で受注が回復しているとのことであるが、一方で取引先から納期の短縮を迫られ、非常に受注計画を立てづらいといった課題を抱えている製造業者もいた。建設業では資材高騰が足枷になっており、それに加えて、人手不足が深刻化している。増え続ける受注に対して、人がいないため、とても受けられないと答えたところもあったと聞いている。人手不足は私共の感覚で考えると、建設業、製造業や運輸業、特にサービス業で顕著に高まっている印象である。

先行きの見通しは、皆さんが言うのは、緩やかに景気は回復しているので、売上は伸びるのではないかという声を非常に聞くが、ただ物価高騰が続くので、その分、利益が減ってしまうと。また小規模企業の方はなかなか賃上げをできない状況にあるので、その部分について、賃上げをしないと従業員離れが進んでしまうということで、中小零細の方はそういったところを懸念していると聞いている。

質問 2 インボイス制度に関して、商工会議所の取り組みを教えてください。特に、制度開始前後の状況を教えてください。

インボイス制度に関しての商工会議所の取り組みは、4月にまず制度の周知ということで、セミナーを開催した。セミナーを開催して思ったことは、皆さん制度自体がよくわからないと。特に免税業者の方が非常にわからないと。おそらく法人の方は税理士の相談を受けていると思うが、免税業者については、取引先から登録業者になるように言われたところもあり、免税業者にならなかった場合にどんなデメリットがあるのかわからない、個別の業種にもよるが、問題・課題が様々あった、ということで、私共はこれらの課題を解決するために、税理士の方と協力して、5日間、個別相談を開催したところ、非常にたくさんの方が見えた。一番大きなところは、登録業者になった方がよいのかどうかと、登録業者になったときに、どのような手続きを行っているのか。例えばレジはどうしたらよいのか、といった具体的な相談があったと聞いている。10月に登録が終わったところで、私共のところに来ている相談は、免税事業者が消費税の申告業者になったが、どのように申告したらよいのかわからないという内容である。2割特例などの話をするが、免税業者はこの消費税の負担が増えてしまうという中で、非常にその辺を不安視しているのと、確定申告で初めて消費税を申告するので、こちらについても困っているという話を聞いており、そちらについても私共の方で、個別相談会や確定申告相談会できめ細かな相談をしていきたいと思っている。

質問 3 実質無利子・無担保融資(ゼロゼロ融資)について、商工会議所の取り組みを教えてください。

実質無利子無担保のゼロゼロ融資の取り組みについては、商工会議所にはあまりこういった相談は少ない。おそらく金融機関の方にゼロゼロ融資については相談されているのだと思う。ただ日本政策金融公庫で借りられた方については、私共に見えるので、借り換えに関する話をするなどの支援をしている。

質問 4 2024年問題に関して、商工会議所の取り組みを教えてください。

2024年問題に関しては商工会議所においては、令和6年度(2024年度)の事業計画の中にあるが、おそらく業種別にセミナーなど、個別性を見て実施していく形になると思う。

小笠原教授のコメント

お忙しい中を当研究所のヒアリングにお応えいただいた企業の皆様には大変感謝する。

各企業や経済団体について課題は様々あれどもコロナ禍を脱しつつある中で順調な回復をしていると伝わり、大変学ぶ部分が多くあった。新型コロナウイルスの5類移行で人の流れも戻りつつあり飲食や観光など直接的に好況を示す分野も出てきておりその点での地域的な力強さを感じさせるものである。

一方でロシアによるウクライナ侵攻に伴う物価の高騰は依然として影響があり、製造業を中心に悩みのタネとなっている。世界的な資源高、そしてインフレーションの沈静化を期待するもまだ道は長く、更に人件費高騰が小山市所在企業にダメージが出ていることも今回のヒアリングでの大きなテーマとなっている。

政府の規制緩和が期待されるものの、未整理な状況では既存企業が大きな影響を受けるというのは一般には知られていない問題であり、今後地域的にも変化の両方の側面について適切な理解をしたうえで企業支援をしてゆく必要があると痛感した。また自動車産業でのコンプライアンス問題が昨年社会的な注目を集め、実際にサプライチェーンにまで影響を及ぼし多くの企業がダメージを被っている現実も今回明らかとなり、例えばSDGsや企業の社会的責任などについても地域的に再度適切な教育や助言、更には補助事業などを検討して指導してゆく必要も感じるものである。社会を意識しない経営はいずれ必ず何らかの形で批判を浴び損失につながるというのが私の意見である。

人材確保の問題も急務である。待遇改善を図り若者に受け入れられる地域を作り、彼ら彼女らが働きやすい環境を整えてゆくことが必要であるが、残念ながら行政機関も経済団体もその辺りについては意識がまだ低いものと察する。何より東京でのそれら改善は北関東の理解を遥かに超えて進展しており若者の吸引力も極めて高い。

その他為替や金利などの問題も企業活動に山積していることが確認でき、地域に根ざし経済活動を続ける皆様に大学との連携の中で解決に向け動く方策や助言を提供できれば大学としてはその役割を担うべく検討してゆきたい。今回の参加の企業の皆様との交流の中で、若者が地域にとって希少な資源となりつつあることが伝わったならば当ヒアリングを本学にて開催した意図が達成されたものとする。白鷗大学としても経営学部、ビジネス開発研究所として地方自治体や経済団体とともに支援できる課題やテーマがあれば是非とも協力をしてゆきたい。

5. まとめ

最近の日本経済の動きを GDP 速報(2023 年 10-12 月期・2 次速報(2024 年(令和 6 年)3 月 11 日公表))でみると、2023 年の実質 GDP 成長率(2023 年暦年連鎖価格)は前年比 1.9%増であり、名目 GDP 成長率は前年比 5.7%増となった。2023 年度はコロナ禍からのリバウンド需要により、緩やかな景気回復が続いたが、実質 GDP 成長率と名目 GDP 成長率の乖離は近年の物価上昇が反映されたものであると考えられる。四半期別(季節調整済、前期比)でみると、2023 年 10~12 月は前期比 0.1%増となった。設備投資が 2.0%増となりプラス成長をけん引したが、個人消費は 0.3%減となった。

こうした状況のなか 2023 年 11 月から 12 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(2023 年度第 2 回)」の結果は、2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類感染症に変更されたことを背景に景気の回復傾向が顕著にみられた前回調査と比べ、リベンジ消費が一巡したためか緩やかな回復傾向がみられた。また、「販売価格見通し(質問 12)」で示されたように、物価の持続的な上昇が観察された。このような物価上昇に加えて、人手不足を背景に賃上げが継続して行われるかが今後の焦点となる。

本調査では、第 38 回調査(2021 年度第 1 回)から今回の調査まで、「新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響(質問 18~21)」を計 6 回実施した。この質問項目は 6 回の調査ですべて同じ内容の質問を行った。コロナ禍という社会・経済に大きな影響を与える危機的状況に対して、供給面、営業・勤務形態等、需要面から定点調査を行い、回答傾向の変化を記録することが狙いであった。この調査からは、感染拡大期には政府による新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出や、まん延防止等重点措置もあり、不要不急の外出自粛が求められたことや、飲食店に対する時短要請もあり、営業・勤務形態の変更や、需要の大きな減少が観察された。また、感染状況が沈静化していくに伴い需要は回復し、営業・勤務形態は正常化していったものの、人手不足や物流の停滞により、特に半導体を中心とした供給制約が問題になった。2023 年 5 月の 5 類へ変更された後は、社会・経済の正常化が進んだことやリベンジ消費も相まって、景気回復の傾向がみられるようになった。ただし、コロナ禍を通じて、大規模で長時間の宴会が避けられるようになったことや、団体旅行ではなく少人数での旅行が好まれるようになったことなど、人々の行動変容が生じていることも注意しなければならない。このような観点からも、コロナ禍前の状況に社会・経済が完全に戻るわけではなく、変化に対応した経営を進めていく必要があるのだろう。前述した通り、2023 年はコロナ禍を脱しつつあり、景気回復の傾向がみられるようになり、注目すべき社会・経済についての課題も変化しつつあるため、計 6 回実施したこの定点調査も今回をもって終了とする。

2024 年 2 月に実施したヒアリング調査では、景気の現状について、業種や企業により、厳しい、変わらない、良くなっている、良好、と様々な声があったが、多くが、需要の回復がみられた後に、原材料・エネルギー価格が高騰した影響を受けているとのことであった。また、大部分の企業が物価高を受けて賃上げを行い、人件費が上がっているとの回答であった。今後の見通しについては、「賃金の上昇により緩やかな回復が見込まれる」、「開発や需要に期待している」との声や、「売上には期待するが物価の高騰が続くために利益は期待できない」、「非常に厳しい」といった声があった。各社が、賃上げと人手不足の課題に継続的に取り組んでいる様子が見えられた。2024 年問題については、コストの増加や納期の遅れ、輸送効率を上げるための拠点整備の必要性、仕分けの手間の増加、業務時間の変更などの影響に対し対応を進めているとの声があった。

2023 年の通年のインフレ率(生鮮食品を除く総合)は前年比 3.1%と、オイルショックの影響があった 1982 年以来の高水準となった。物価高の背景には、2022 年 2 月から続く、ロシアのウクライナへの軍事侵攻や、2024 年 3 月時点で 1 ドル 150 円前後を推移する円安傾向が要因として挙げられる。他方、2024

年2月22日、日経平均株価は、バブル期の1989年12月29日につけた終値としての史上最高値を更新して3万9098円まで上昇し、2024年3月4日には、史上初の4万円台に乗せ、2024年の春闘では大手企業を中心に高水準の賃上げの妥結が続いている。このような日本経済を取り巻く状況の下で、日本銀行は2024年3月の金融政策決定会合で、マイナス金利政策を含む大規模緩和の解除を決定した。2013年に始まった大規模緩和は事実上終了し、金融政策が正常化に向かい始めた。2024年にはアメリカ大統領選挙も控えており、社会・経済を取り巻く状況が大きく変化することが予見されるため、このような変化が地方経済へどのように波及するのか注視する必要があるだろう。

(参考資料)

i. 小山市景気動向アンケート調査票(2023年度第2回)

小山市景気動向アンケート調査 調査票(2023年度第2回)

[フェースシート]

小山市経済動向実態調査以外の目的には一切使用いたしませんので、下記の項目にご記入いただきますようお願い申し上げます。

1. 貴店(貴社)の主とする業種(小山市にある事業所(店舗)で取り扱っている業種)は何ですか。最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 流通業(小売業) ② 製造業 ③ 金融・保険業 ④ 運輸業 ⑤ ホテル・旅館業
⑥ 飲食業 ⑦ 通信・放送業 ⑧ 不動産・住宅業 ⑨ サービス業 ⑩ 印刷業
⑪ その他()
2. 貴店(貴社)の従業者数(パート・アルバイトを含む)(小山市の事業所(店舗)における従業者)について、当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 1~4人 ② 5~9人 ③ 10~19人 ④ 20~29人
⑤ 30~49人 ⑥ 50~99人 ⑦ 100人以上 ⑧ 不明
3. 貴店(貴社)の年間売上げ(小山市の事業所(店舗)における売上げ)について、当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 3000万円未満 ② 3000万円~1億円未満 ③ 1億円~5億円未満
④ 5億円~10億円未満 ⑤ 10億円以上 ⑥ 不明
4. 貴店(貴社)の小山市の店舗(事業所)における売上げのうち、小山市内の企業、消費者からの需要の割合はおよそどのくらいですか。当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 80~100% ② 60~79% ③ 40~59% ④ 20~39% ⑤ 0~19% ⑥ 不明
5. 調査の回答に関する連絡先(社判等でも差支えございません)

貴店(貴社)のお名前:

ご担当者名:

ご住所:

電話番号:

E-mail:

お忙しいところご協力ありがとうございます。次ページ以降の調査にご回答いただきました方には、次回調査時に今回の調査結果とともに、些少ながらクオカード(1000円)をお送りいたします。

「小山市経済動向実態調査」

委託元 小山市産業観光部商業観光課

調査受託 白鷗大学ビジネス開発研究所

電話:0285-22-1111(大学・代表)

Fax:0285-20-8157

調査担当(西谷、高木、八尾、櫻庭)

〔質問項目〕

2023年12月現在の状況でお答え下さい。1.から24.(6ページ目)までご回答のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 現在の小山市の景気についての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて2023年下半期(7~12月期)の景気は良いと思いますか、悪いと思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(水準)

- ① 良い ② やや良い ③ どちらともいえない ④ やや悪い ⑤ 悪い

2. 1.のご回答の理由として、どのような点に着目されましたか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 小山市の人出の状況 ② お客様や取引先の様子(購買態度など)
③ 物価の動き ④ 雇用の状況 ⑤ 周辺地域の様子
⑥ その他()

3. 2.の回答内容について具体的に説明してください。

4. 小山市の景気の先行きについての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて、2024年上半期(1~6月期)の景気は、2023年下半期(7~12月期)と比べて良くなると思いますか、悪くなると思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(将来の方向)

- ① 良くなる ② やや良くなる ③ 変わらない ④ やや悪くなる ⑤ 悪くなる

5. 4.の回答内容について具体的に説明してください。

6. 貴店(貴社)の売上げ等からみて、貴業界の小山市における2023年下半期(7~12月期)の需要は季節的な要因を除いて、2023年上半期(1~6月期)にくらべて売上金額で増加したと思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 増加した ② やや増加した ③ 変わらない ④ やや減少した ⑤ 減少した

7. 6.でそのように回答された理由として、もっとも適切と思われるものを一つ選んで○をつけてください。家計消費向け取引(B to C)を行っていない場合は「家計消費向け取引(B to C)を行っていない」に○をつけてください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【家計消費向け取引(B to C)の場合】

- ① 来客数の動き ② 販売量の動き ③ 客単価の動き ④ 販売価格の動き
- ⑤ お客様の様子 ⑥ 競争相手の様子 ⑦ 家計消費向け取引(B to C)を行っていない
- ⑧ その他()

8. 6.でそのように回答された理由として、もっとも適切と思われるものを一つ選んで○をつけてください。企業向け取引(B to B)を行っていない場合は、「企業向け取引(B to B)を行っていない」に○をつけてください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【企業向け取引(B to B)の場合】

- ① 受注量や販売量の動き ② 受注価格や販売価格の動き ③ 取引先の様子
- ④ 競争相手の様子 ⑤ 企業向け取引(B to B)を行っていない
- ⑥ その他()

9. 7.、8.の回答内容について具体的に説明してください。

10. 貴店(貴社)の売上の動き等からみて、貴業界の小山市における 2024 年上半期(1~6 月期)の売上高(生産高)の見通しをお伺いします。2023 年下半期(7~12 月期)と比べて、季節的要因を除いて、2024 年上半期(1~6 月期)の売上高(生産高)は増加すると思いますか。もっとも適切と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(売上高の先行き)

- ① 増加する ② やや増加する ③ 変わらない ④ やや減少する ⑤ 減少する

11. 10.でそのように回答した理由を教えてください。

12. 貴店(貴社)の販売価格の動き等からみて、貴業界の小山市における 2024 年上半期(1~6 月期)の販売価格の見通しをお伺いします。2023 年下半期(7~12 月期)と比べて、2024 年上半期(1~6 月期)の販売価格はどのようになると思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(価格見通し)

- ① 上昇する ② やや上昇する ③ 変わらない ④ やや低下する ⑤ 低下する

13. 貴店(貴社)の雇用(従業員)の状況等からみて、貴業界の小山市における 2024 年上半期(1~6 月期)の雇用状況の見通しをお伺いします。2023 年下半期(7~12 月期)と比べて、2024 年上半期(1~6 月期)の雇用状況はどうなると思いますか。従業員が不足しますか、過剰になりますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(雇用見通し)

- ① 不足する ② やや不足する ③ 横ばい ④ やや過剰となる ⑤ 過剰となる

14. 貴店(貴社)あるいは貴業界における資金繰りの状況をお伺いします。貴店(貴社)の 2023 年下半期(7~12 月期)における資金繰りは、2023 年上半期(1~6 月期)にくらべて改善しましたか、悪化しましたか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 改善した ② やや改善した ③ どちらともいえない ④ やや悪化した ⑤ 悪化した

15. 14.でそのように回答した理由をあげてください。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 売上高の変化 ② 設備資金需要の変化 ③ 仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化
④ 人件費の変化 ⑤ 金融機関の貸出態度の変化 ⑥ 金融政策、金利の変化
⑦ その他()

16. 貴店(貴社)における 2023 年度の主な従業員の賃金等の状況をお伺いします。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① ベースアップを実施 ② ボーナスの実施 ③ 定期昇給を実施 ④ ボーナスの増額
⑤ ボーナス以外の手当の増額 ⑥ 定期給与・ボーナス等の変更なし ⑦ 定期給与の引下げ
⑧ ボーナスの減額 ⑨ ボーナス以外の手当の減額
⑩ その他()

17. 16. でそのように回答した具体的内容・理由を記入してください。

〔新型コロナウイルス感染症(コロナ禍)に関する質問〕

18. 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関して、2023年下半期(7~12月期)には貴社(貴店)、貴業界はどのような影響を受けましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【供給面への影響】

- ① コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ
- ② 商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った
- ③ コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ
- ④ 原材料・部品の入手の状況はコロナ禍前に戻った
- ⑤ コロナ禍前に比べ供給能力が増加した
- ⑥ 供給能力はコロナ禍前の状況に回復した
- ⑦ 供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない
- ⑧ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑨ その他()

19. コロナ禍に関して、2023年下半期(7~12月期)には貴社(貴店)、貴業界はどのような影響を受けましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【営業・勤務形態等への影響】

- ① コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ
- ② コロナ禍前の営業時間に戻った
- ③ コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ
- ④ 従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った
- ⑤ コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている
- ⑥ 勤務形態はコロナ禍前のものに戻った
- ⑦ コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ
- ⑧ コロナ禍前と比べ業態転換が進んだ
- ⑨ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑩ その他()

20. コロナ禍に関して、2023年下半期(7~12月期)には貴社(貴店)、貴業界はどのような影響を受けましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【需要面への影響】

- ① コロナ禍前に比べ需要全体が減少した
- ② コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した
- ③ 全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した
- ④ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した
- ⑤ コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した
- ⑥ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑦ その他()

21. 18.~20.でそのように回答した具体的内容・理由を記入して下さい。

〔インボイス制度に関する質問〕

2023年10月1日から、複数税率に対応した消費税額の仕入税額控除の方式として、「適格請求書等保存方式（インボイス制度）」が開始されました。インボイス制度に関して以下の質問に回答してください。

22. インボイス制度の対応状況について教えてください。あてはまるもの一つに○をつけてください。

- ① 順調に対応できている ② 対応がやや遅れている ③ 対応が大幅に遅れている ④ わからない

23. インボイス制度導入に伴う懸念事項を教えてください。あてはまるものすべてに○をつけてください（複数回答可）。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 業務負担の増加 ② 取引先への対応 ③ 仕入先への対応 ④ 社内での理解不足
⑤ 請求書関連のミス ⑥ 会計システムの不具合 ⑦ 懸念事項はない ⑧ わからない
⑨ その他()

24. インボイス制度に対応するための取り組みや、現在認識している課題について記入してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ii. 小山市景気動向アンケート調査(2023 年度第 2 回)の回答一覧

選択回答 質問 1~8

No.	質問 1	質問 2	質問 4	質問 6	質問 7 (BtoC)	質問 8 (BtoB)
1	3	2	3	2	2	1
2	4	6	3	3	1	
3	2	2	2	2	3	2
4	4	2	3	4	4	2
5	3	2	2	1	1	1
6	2	5	2	3	7	3
7	4	2	3	3	1, 2, 3	3
8	3	1, 2, 3	2	1	1, 2, 3, 8	5
9	2	3	2	1	3	2
10	4	5	4	3	7	2
11	3	2	3	2	1	2
12	3	2	3	3	5	1
13	4	2	4	4	1	1
14	3	2	3	3	5	3
15	2	2	3	3	2	3
16	3	2	3	3	5	3
17	2	1	4	2	2	1
18	2	1	2	3	7	2
19	3	2	3	2	1	5
20	3	2	3	2	3	5
21	5	2	3	5	7	3
22	3	3	3	3	7	1
23	3	3	3	4	2	1
24	3	2	2	2	7	1
25	3	1	3	3	1	1
26	4	2	2	3	7	1
27	3	2, 4, 5	2	4	3, 5	1, 3
28	3	2	3	3	1	
29	3	2	3	2	4	2
30	2	2	4	1	7	1, 2
31	3	2	4	3	7	3

32	4	2	3	4	7	2
33	3	1, 3, 4	3	2	7	2

選択回答 質問 8~16

No.	質問 10	質問 12	質問 13	質問 14	質問 15	質問 16
1	3	3	3	2	1	6
2	3	3	3	3	1, 3	
3	3	2	3	2	1, 3, 4	2, 3, 4
4	2	4	4	3	1, 3	2, 3
5	2	2	2	2	1	3
6	3	3	2	2	1, 4	1
7	2	2	2	3		3, 8
8	1	2	2	4	1, 3, 4, 7	1, 2, 3, 4
9	2	3	3	2	1, 4	2, 3, 4
10	3	3	1	3	3	1, 2, 4
11	3	2	1	3	3	1
12	3	3	3	4	3	1
13	3	1	2	3		1, 4
14	3	3	2	3		
15	3	3	3	2	3, 4	6
16	3	3	3	4	1	6
17	3	2	4	3	1, 3, 4	1, 4
18	2	3	3	4	3	
19	2	3	3	3	3	2, 3, 4
20	3	3	2	3	1, 3, 4	1
21	3	3	3	5	1, 3	7
22	3	3	2	3		1, 2, 3
23	3	3	2	3	3	1
24	3	3	3	3	1	2, 3
25	3	3	2	3	4	1
26	4	2	4	4	1, 3	2, 3
27	3	2	2	3	2, 6	1
28	3	2	3	4	3	6
29	2	2	2	2	6	1, 6
30	4	4	2	4	5	2
31	4	2	4	3	7	2, 3
32	4	3	3	3	1, 3	10
33	2	2	2	3	1	2, 3

選択回答 質問 18～23

No.	質問 18	質問 19	質問 20	質問 22	質問 23
1	8	2	3	1	7
2	6	6	3		
3	3	1, 6, 7	2, 4	1	1, 2, 4, 5
4	8	9	6	1	1, 2, 3
5	1, 7	1	1	1	1
6	8	9	6	2	5
7	6	5	2	1	2, 3
8					
9	8	5, 6	6	1	1, 2, 3, 4, 5, 6
10	8	9		1	1, 2, 4
11	3	6, 7	3	1	1, 3
12	2	4	1	1	7
13	2	4	2	2	1, 4
14	9	7		1	4
15	7	4	2	2	1, 2, 5
16	6	2	3	4	8
17	6	4, 6	1	1	1
18	4	9	2	2	2, 6
19	4	4	6	1	7
20	2, 6	1	3, 5	2	1, 6
21	2	10	2	1	7
22	8	5	6	1	1, 4
23	8	9	6	1	1
24	3	5	5	1	1
25	2	2	1	1	1
26	6	9	1	1	1, 2
27	8	9	1	1	2
28	4, 6	2, 4, 6	3	1	1, 5
29	1	8	1	1	2, 4, 5
30	9	9	3	1	4, 6, 9
31	6	9	5	1	5, 6
32	7	6	1	2	2
33	8	6	6	1	2, 3

記述回答 質問 1～3

No.	質問 1	質問 2	質問 2 ⑥その他	質問 3
1	3	2		
2	4	6	自身が高齢になってきたからと思う。	上記の通りと思う。
3	2	2		飲食店を中心に来店増。特に居酒屋は宴会利用が大幅増。
4	4	2		
5	3	2		業種によってばらつきがある為
6	2	5		平地林が伐採されて、どんどんヤードになっていく様子を見て
7	4	2		販売内容において、要因は他にもありますが、単価減少、客数減少傾向。
8	3	1, 2, 3		会議等で人が集まる機会が多くなり、タクシー、代行等でも人の流れ動きが戻っている。飲食店、スーパー、電機店などの価格が上昇している。取引先は景気がコロナ前に戻っていると店と戻らない店とまちまち。
9	2	3		建物・土地価格上昇を感じておりますが、購入が停滞していない。
10	4	5		食料品以外の商業店舗には客が少ないように感じる。
11	3	2		人の動きが安定していない。
12	3	2		
13	4	2		話題が消極的
14	3	2		コロナ以後回復傾向にある企業とそうでない企業とがある。
15	2	2		
16	3	2		コロナは落ち着いたが、物価高の影響がある。
17	2	1		コロナが 5 月より 5 類となり外出しやすくなった。
18	2	1		企業のイベント等が活発になっているから。
19	3	2		市内顧客(個人)の状況
20	3	2		来店サイクルは長くなったが、1 回に支払う単価は高くなった事から。
21	5	2		10 月中旬頃より主力の工場が動かなくなった。
22	3	3		新型コロナが 5 類になったが、円安や国際情勢不安の影響を受け、エネルギーや食料品など多くの生活必需品の価格が上昇し、足元の暮らしを直撃している。
23	3	3		売上を上げた。

24	3	2		コロナ禍が落ち着いてきた一方、物価変等の悪影響も出てきている。
25	3	1		利用者数の変化なし。
26	4	2		会話内容
27	3	2, 4, 5		人手不足による影響が大きいと考える。
28	3	2		
29	3	2		コロナが5類に移行して、お客の数が増えたが、1回の購入額は増えていない。
30	2	2		9月後半あたりから仕事の受注が増えている。(前年と比例)
31	3	2		工事発注が横ばい。決定するまで時間がかかる。
32	4	2		予算が少なくなっている。
33	3	1, 3, 4		需要が増えつつあるが、人手不足、物価高はより供給が追いつかないため。

記述回答 質問 4、5

No.	質問 4	質問 5
1	3	
2	3	まだまだ景気は上向いていないと思う。
3	2	人流回復、外出増の反面、日々の節約志向は上昇するのでは。(特に食品/衣料)
4	3	
5	2	コロナ感染が一段落し、観光や外食に抵抗感が薄れてきて、人の動きが活発になる。
6	2	3が継続されていく
7	3	これまでと変わらず、高級車は売れ行き不透明。
8	2	物の上がり方が先行も賃金の上昇や政府の対策効果があらわれて来る事を期待。
9	2	良い住宅の供給を追求しているが、昨年より問い合わせが増えている。
10	4	物価の値上がりなどで需要が減ると思われる。
11	3	全ての注文があっても、対応が出来ない為
12	3	
13	4	購買が社会に反応している。
14	3	円安、物価高等企業収益が左右される要因が多くあるから。
15	3	
16	3	変動要因はない。
17	4	多くの物が値上がりしているが中小企業の従業員の給与が上がらない為。
18	2	コロナ禍から少しずつ脱却しつつある。
19	3	世の中に不透明感があり現状程度と思われる。
20	3	光熱費や物価の上昇はこれからも続いていく事から。
21	3	半年は今の状況が続く事との事。
22	3	
23	3	
24	2	ウクライナ、イスラエル等、国際情勢は厳しいが、現状からわずかながらもよくなる(と期待を込めて)。
25	3	
26	2	・新型コロナやインフルエンザの影響減 ・春になり人出が増
27	2	遅れていた設備投資などの動きがあるように感じる。
28	3	
29	3	物価高の影響が大きい為、変わらないと思う。
30	4	通年例として年後半に売上が伸びやすい。
31	4	客先の生産が落ちている。
32	3	ほぼ定着している。

記述回答 質問 6、7

No.	質問 6	質問 7 (BtoC)	質問 7(BtoC) ⑧その他
1	2	2	
2	3	1	
3	2	3	
4	4	4	
5	1	1	
6	3	7	
7	3	1, 2, 3	
8	1	1, 2, 3, 8	コロナ前の物品の遅れ分の売上が計上される。
9	1	3	
10	3	7	
11	2	1	
12	3	5	
13	4	1	
14	3	5	
15	3	2	
16	3	5	
17	2	2	
18	3	7	
19	2	1	
20	2	3	
21	5	7	
22	3	7	
23	4	2	
24	2	7	
25	3	1	
26	3	7	
27	4	3, 5	
28	3	1	
29	2	4	
30	1	7	
31	3	7	
32	4	7	
33	2	7	

記述回答 8、9

No.	質問 8 (BtoB)	質問 8(BtoB) ⑥その他	質問 9
1	1		
2			
3	2		各種値上げによる客単価上昇
4	2		
5	1		予約数が増えている。
6	3		取引先が少ないが、継続的に受注をいただいているところから
7	3		新しい投資案件のことを聞かない。
8	5		
9	2		価格高騰があっても良いものを求める意識が高まっており、単価が上がっている。
10	2		販売価格を維持しながら生産コストを下げ値差を確保している。
11	2		受注があっても、人手不足の為、すべて対応が出来ない為
12	1		原材料が高騰しているので、動きがわるい。
13	1		客単価の減少。
14	3		
15	3		
16	3		
17	1		人の動きが出ている。出張も多少増えている。
18	2		物量は減少しているが、運賃が多少上がっている。
19	5		当社は個人契約が主体であるため。
20	5		
21	3		
22	1		
23	1		
24	1		若干ながら、インボイスの一時的対応などもあった為。
25	1		
26	1		大きく変化していない。
27	1, 3		業績が思うように伸びていないが、今後、企業の設備投資が回復している兆しもある。
28			
29	2		原材料の高騰による販売価格の見直しをしたため。
30	1, 2		物価高や燃料費の上昇を受け、運賃の値上げを徐々に行っている。コロナ期と比べ、受注量も増加しているので、売上は相対的に上がる。
31	3		工事案件(見積り)が減っている。

32	2		予算の縮小
33	2		生産量、生産高増、受注量、受注高増のため

記述回答 質問 10、11

No.	質問 10	質問 11
1	3	
2	3	年齢的についていけなくなってきた。
3	3	現在のメリハリ消費はコロナ禍に対するリベンジ要素もあると思われる。よって 5 類移行から 1 年経過することで節約志向がやや上昇すると思われるため。
4	2	
5	2	会食、出張等人の動きが活発になるものと思っている。
6	3	9と同じ
7	2	期待値を込めて大きいのが、そうするための施策実施。
8	1	コロナ前の物品(受注残)が売上になる為。
9	2	棟数は横ばいだが、単価が上がっているため。
10	3	受注量を変わずに維持している。
11	3	人出の問題が対応できなければ、売上増が不可の為。
12	3	
13	3	自然減を努力しておぎなえるかな？
14	3	大きな設備投資など見込みがないから。
15	3	
16	3	為替の動向に左右される部分もあるので読みづらい。
17	3	政治も経済もよくなる兆しがない。
18	2	輸出する品物が増加しそうだから。
19	2	電送路の光化整備を行っており、契約の増加が見込まれる。
20	3	
21	3	わからない
22	3	
23	3	動向が活発でない
24	3	良くなる材料が見当たらない。
25	3	
26	4	農機業界の為、農家の高齢化等による減少
27	3	業績や企業にとって、様々であるため、良い先と悪い先に分かれる。
28	3	
29	2	コロナ感染症に対する意識がうすれてきた。慣れてきてしまった。季節的要因かもしれないが、この部分は大きいと思う。
30	4	通例として年後半に売上が上がりやすい為
31	4	物価の高騰
32	4	冠婚葬祭の縮小
33	2	生産量、生産高増、受注量、受注高増加見込のため。

記述回答 質問 14、15

No.	質問 14	質問 15	質問 15 ⑦その他
1	2	1	
2	3	1, 3	
3	2	1, 3, 4	
4	3	1, 3	
5	2	1	
6	2	1, 4	
7	3		
8	4	1, 3, 4, 7	コロナ前の受注残と仕入が重なった為、23 年上期よりやや悪化。
9	2	1, 4	
10	3	3	
11	3	3	
12	4	3	
13	3		
14	3		
15	2	3, 4	
16	4	1	
17	3	1, 3, 4	
18	4	3	
19	3	3	
20	3	1, 3, 4	
21	5	1, 3	
22	3		
23	3	3	
24	3	1	
25	3	4	
26	4	1, 3	
27	3	2, 6	
28	4	3	
29	2	6	
30	4	5	
31	3	7	例年通り
32	3	1, 3	
33	3	1	

記述回答 質問 16、17

No.	質問 16	質問 16 ⑩その他	質問 17
1	6		
2			二人だけでやっているの、すべてなし。
3	2, 3, 4		社会情勢より
4	2, 3		
5	3		人材を確保するうえで、給与水準を見直している。
6	1		雇用状況とリンクさせているので
7	3, 8		2023 冬の賞与額が半減。
8	1, 2, 3, 4		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前の受注残納期が 23 年 9 月より改善し、売上が増加(回復)。24 年も引き続き同じような状況が続くため、人件費の増額。 ・また、コロナ中にペーパーレス、通信などで DX 化が進み効率 UP に繋がる。 ・今後は設備投資や上記のさらなる効率 UP を行い賃金上昇につなげたい。
9	2, 3, 4		増益のため。
10	1, 2, 4		利益が上がった為、ボーナスが増額となった。
11	1		最低賃金の上昇のために基本的アップする方向にした為
12	1		
13	1, 4		社会並みにしないと人が来ない。
14			
15	6		
16	6		
17	1, 4		社員のモチベーションを上げるため。物価が上昇しているため。
18			売上高は減少しているが、待遇はなんとか現状維持している。
19	2, 3, 4		物価上昇を考慮した定期昇給、賞与の支給率のアップ。
20	1		
21	7		主力の会社からの受注が無いので。
22	1, 2, 3		従業員のモチベーション維持、向上につながるものと考え実施した。
23	1		時給アップ
24	2, 3		当初計画通り
25	1		1.5%のベース UP 実施
26	2, 3		人員確保の為
27	1		全職員に対し賃上げを実施している。
28	6		
29	1, 6		給与規定に則っているため。

30	2		赤字なのでベースアップができない。
31	2, 3		補助金等の申請条件のための物価高に対応。
32	10	自営業	自営業のため、決算は赤字です。
33	2, 3		年収ベース、賃金3%実施

記述回答 質問 18、19

No.	質問 18	質問 18 ⑨その他	質問 19	質問 19 ⑩その他
1	8		2	
2	6		6	
3	3		1, 6, 7	
4	8		9	
5	1, 7		1	
6	8		9	
7	6		5	
8				
9	8		5, 6	
10	8		9	
11	3		6, 7	
12	2		4	
13	2		4	
14	9	コロナ融資の返済開始となる企業が増えてきた。	7	7について:IT化が進んだ。
15	7		4	
16	6		2	
17	6		4, 6	
18	4		9	
19	4		4	
20	2, 6		1	
21	2		10	仕事上は何も変わっていない。
22	8		5	
23	8		9	
24	3		5	
25	2		2	
26	6		9	
27	8		9	
28	4, 6		2, 4, 6	
29	1		8	
30	9	需要は戻ってきているが、ドライバーが減ったため、仕事のやりくりが大変な状況。	9	
31	6		9	

32	7		6	
33	8		6	

記述回答 質問 20、21

No.	質問 20	質問 20 ⑦その他	質問 21
1	3		
2	3		
3	2, 4		3,5 と同じ(メリハリ消費)
4	6		
5	1		宴会等会食件数は、コロナ禍前に戻ったが、会食に参加する人数が減少している。
6	6		
7	2		半導体不足は解消してきているが、その余韻がある。
8			
9	6		材料不足等事前に手を打っていたので大きな影響はありませんでした。
10			コロナ禍であっても受注量に変化はなかったため、通常の操業を行った。
11	3		コロナの 5 類の変更のために、人の動きが戻り、乗客も動いている。
12	1		
13	2		小山市共通商品券の効果が令和 5 年度は半減した。
14			
15	2		
16	3		
17	1		
18	2		コロナの影響で取引先の人材不足により品物の生産などが遅れたため。
19	6		ケーブルテレビ、インターネット、固定電話契約であり、コロナ禍の影響はほとんどなかった。
20	3, 5		
21	2		コロナに関係有るかは不明だが大幅減少。
22	6		
23	6		
24	5		コロナ化時に比べ回復(コロナ禍前に近づきつつある)
25	1		受注量が減っている。
26	1		18.コロナ禍では上海ロックダウンの影響で入手困難であったが、2023 年は回復した。 19.農業・農機業界には影響はほとんどなかった。

			20.コロナ禍で農家へ経営継続補助金という補助金が出ていた為、農機業界では需要の先食いが生じ、現在の需要は反動により減少。
27	1		コロナ禍は特殊要因により業績は拡大した。現在はそのあおりを受けており、業績はやや悪化している。
28	3		
29	1		大口の受注数が減少したままの状態が続いている。
30	3		
31	5		社内的にはコロナの影響は実際に罹患すること程度
32	1		
33	6		休憩時間をずらすなど、形態を変えていたが、コロナ前に戻った。

記述回答 質問 24

No.	質問 24
1	
2	
3	免税事業者への対応(取引先)
4	
5	消費税額を区分して記入する手間が増えた。
6	事業者登録番号の確認が、通販などでとれない場合がある。
7	取引先においてインボイス未対応の会社への対応。
8	
9	制度は本社が作っているので問題がないが、現場の実務は非常に煩雑になっている。
10	
11	
12	個人事業主様のインボイスの登録が遅れており、取引に支障が出てくると思う。
13	
14	
15	
16	
17	
18	まだまだアナログの管理で業務しているので、紙媒体が多いこと。
19	順調に対応しており、特に問題なし。
20	
21	
22	
23	
24	業務負担が当面の問題となっている。
25	
26	
27	特になし
28	
29	明細の書き方(記入の仕方)等で、社内で混乱している。 (例えば消費税の計算の仕方、商品価格帯が幅広いため。)
30	ドライバー(庸車さん)でインボイスを取らないことを選択している人がいるが、消費税の支払いで会社の負担が増える為、困っている。
31	会計ソフトを新しく買い替えた。
32	インボイス制度に登録してないが、現在は問題なし。
33	インボイス取得(免税事業者)への仕入れ額マストアップ改善が課題。

iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)

質問 1 小山市の景気の現状(水準)

			良い	やや良い	どちらとも いけない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回	2023年	7~12月	0.0	21.2	54.5	21.2	3.0	0.0	48.5
前回	2023年	1~6月	0.0	40.0	45.7	5.7	8.6	0.0	54.3
前々回	2022年	7~12月	3.0	24.2	42.4	24.2	6.1	0.0	48.5
第40回	2022年	1~6月	5.3	10.5	52.6	18.4	13.2	0.0	44.1
第39回	2021年	7~12月	0.0	12.8	41.0	28.2	17.9	0.0	37.2
第38回	2021年	1~6月	0.0	8.7	19.6	60.9	10.9	0.0	31.5
第37回	2020年	7~12月	0.0	9.1	13.6	43.2	34.1	0.0	24.4
第36回	2020年	1~6月	0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
第35回	2019年	7~12月	0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5
第34回	2019年	1~6月	2.2	10.9	47.8	37.0	0.0	2.2	44.5
第33回	2018年	7~12月	2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0.0	51.6
第32回	2018年	1~6月	0.0	31.6	55.3	10.5	0.0	2.6	55.4
第31回	2017年	7~12月	0.0	32.6	58.1	4.7	4.7	0.0	54.7
第30回	2017年	1~6月	0.0	17.0	59.6	19.1	4.3	0.0	47.3
第29回	2016年	7~12月	0.0	14.6	47.9	31.3	6.3	0.0	42.7
第28回	2016年	1~6月	0.0	9.3	64.8	20.4	5.6	0.0	44.5
第27回	2015年	7~12月	0.0	21.7	56.5	21.7	0.0	0.0	50.0
第26回	2015年	1~6月	0.0	22.4	49.0	20.4	8.2	0.0	46.4
第25回	2014年	7~12月	0.0	10.9	50.0	32.6	6.5	0.0	42.7
第24回	2014年	1~6月	2.0	16.0	54.0	16.0	8.0	4.0	46.9
第23回	2013年	7~12月	2.0	28.6	49.0	16.3	4.1	0.0	52.0
第22回	2013年	1~6月	0.0	18.5	48.1	31.5	1.9	0.0	45.8
第21回	2012年	7~12月	0.0	4.1	44.9	34.7	16.3	0.0	34.2
第20回	2012年	1~6月	0.0	14.6	29.2	43.7	12.5	0.0	36.7
第19回	2011年	7~12月	1.8	9.2	25.5	45.5	18.0	0.0	32.8
第18回	2011年	1~6月	0.0	1.9	15.4	50.0	30.8	1.9	22.0
第17回	2010年	7~12月	0.0	6.7	33.3	40.0	20.0	0.0	31.7
第16回	2010年	1~6月	0.0	10.4	27.1	39.6	22.9	0.0	31.3
第15回	2009年	7~12月	0.0	2.1	4.2	41.7	52.0	0.0	14.1
第14回	2009年	1~6月	0.0	1.8	1.8	38.6	57.8	0.0	11.9
第13回	2008年	7~12月	0.0	0.0	4.3	36.2	59.5	0.0	11.2

第12回	2008年	1~6月	0.0	2.2	13.3	66.7	17.8	0.0	25.0
第11回	2007年	7~12月	0.0	0.0	38.3	53.2	8.5	0.0	32.5
第10回	2007年	1~6月	0.0	23.1	45.2	27.9	3.8	0.0	46.9
第9回	2006年	7~12月	0.0	20.8	35.4	33.3	10.5	0.0	41.6
第8回	2006年	1~6月	0.0	25.5	53.2	14.9	6.4	0.0	49.5
第7回	2005年	7~12月	0.0	28.9	44.4	22.2	4.5	0.0	49.4
第6回	2005年	1~6月	0.0	14.6	29.3	51.0	5.1	0.0	38.4
第5回	2004年	7~12月	0.0	12.5	27.5	42.5	17.5	0.0	33.8
第4回	2004年	1~6月	0.0	16.7	38.1	33.3	11.9	0.0	39.9
第3回	2003年	7~12月	0.0	12.0	18.0	40.0	30.0	0.0	28.0
第2回	2003年	1~6月	1.6	0.0	16.4	44.3	37.7	0.0	20.9
初回	2002年	7~12月	0.0	1.2	7.4	37.0	54.4	0.0	13.9

質問4 小山市の景気の先行き(来半期見通し)

見通し対象時期	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回 2024年 1~6月	0.0	27.3	57.6	15.2	0.0	0.0	53.0
前回 2023年 7~12月	2.9	42.9	37.1	11.4	5.7	0.0	56.4
前々回 2023年 1~6月	0.0	21.2	48.5	27.3	3.0	0.0	47.0
第40回 2022年 7~12月	2.6	15.8	55.3	21.1	5.3	0.0	47.4
第39回 2022年 1~6月	5.1	53.8	28.2	7.7	2.6	2.6	63.2
第38回 2021年 7~12月	2.2	43.5	39.1	13.0	2.2	0.0	57.6
第37回 2021年 1~6月	0.0	13.6	38.6	34.1	13.6	0.0	38.1
第36回 2020年 7~12月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
第35回 2020年 1~6月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6
第34回 2019年 7~12月	2.2	10.9	54.3	28.3	2.2	2.2	45.6
第33回 2019年 1~6月	0.0	31.1	57.8	11.1	0.0	0.0	55.0
第32回 2018年 7~12月	2.6	15.8	68.4	13.2	0.0	0.0	52.0
第31回 2018年 1~6月	0.0	39.5	53.5	7.0	0.0	0.0	58.1
第30回 2017年 7~12月	0.0	19.1	63.8	14.9	2.1	0.0	50.0
第29回 2017年 1~6月	0.0	24.5	61.2	12.2	2.0	0.0	52.0
第28回 2016年 7~12月	1.9	11.1	53.7	29.6	3.7	0.0	44.5
第27回 2016年 1~6月	0.0	21.7	60.9	17.4	0.0	0.0	51.1
第26回 2015年 7~12月	0.0	30.6	55.1	12.3	2.0	0.0	53.6
第25回 2015年 1~6月	0.0	26.1	45.7	21.7	4.3	2.2	48.9
第24回 2014年 7~12月	0.0	24.0	46.0	26.0	4.0	0.0	47.5
第23回 2014年 1~6月	4.1	28.6	42.9	22.4	2.0	0.0	52.6
第22回 2013年 7~12月	1.9	37.0	50.0	7.4	3.7	0.0	56.5
第21回 2013年 1~6月	2.0	36.7	42.9	14.3	4.1	0.0	54.6
第20回 2012年 7~12月	0.0	20.8	43.8	27.1	8.3	0.0	44.3
第19回 2012年 1~6月	0.0	16.4	47.3	27.3	7.3	1.7	43.6
第18回 2011年 7~12月	3.8	21.2	38.5	23.1	13.4	0.0	44.7
第17回 2011年 1~6月	0.0	6.7	64.4	24.4	4.5	0.0	43.3
第16回 2010年 7~12月	2.1	29.2	52.1	6.3	8.3	2.0	52.7
第15回 2010年 1~6月	0.0	8.3	37.5	33.3	20.9	0.0	33.3
第14回 2009年 7~12月	1.8	17.5	36.8	27.2	14.9	1.8	40.9
第13回 2009年 1~6月	0.0	0.0	10.6	12.8	74.5	2.1	8.7
第12回 2008年 7~12月	0.0	2.2	13.3	68.9	15.6	0.0	25.5
第11回 2008年 1~6月	0.0	8.5	42.6	42.6	4.3	2.0	39.1
第10回 2007年 7~12月	1.9	19.2	58.7	20.2	0.0	0.0	50.7

第9回	2007年	1~6月	2.1	25.0	58.3	10.4	4.2	0.0	52.6
第8回	2006年	7~12月	0.0	31.9	51.1	17.0	0.0	0.0	53.7
第7回	2006年	1~6月	2.2	51.1	40.0	6.7	0.0	0.0	62.2
第6回	2005年	7~12月	0.0	17.1	48.8	26.8	7.3	0.0	43.9
第5回	2005年	1~6月	0.0	9.8	41.5	43.9	4.8	0.0	39.1
第4回	2004年	7~12月	0.0	33.3	50.0	11.1	5.6	0.0	52.8
第3回	2004年	1~6月	0.0	18.0	32.0	34.0	16.0	0.0	38.0
第2回	2003年	7~12月	1.6	3.3	47.5	32.8	14.8	0.0	36.0
初回	2003年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 6 業界の小山市における売上（売上金額の増減）

			増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	2023年	7~12月	12.1	27.3	42.4	15.2	3.0	0.0	57.6
前回	2023年	1~6月	5.7	40.0	25.7	22.9	5.7	0.0	54.3
前々回	2022年	7~12月	0.0	30.3	39.4	24.2	6.1	0.0	48.5
第40回	2022年	1~6月	7.9	15.8	39.5	28.9	5.3	2.6	48.0
第39回	2021年	7~12月	0.0	23.1	43.6	20.5	10.3	2.6	45.4
第38回	2021年	1~6月	0.0	23.9	37.0	30.4	8.7	0.0	44.0
第37回	2020年	7~12月	0.0	20.5	31.8	22.7	22.7	2.3	37.8
第36回	2020年	1~6月	2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
第35回	2019年	7~12月	0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3
第34回	2019年	1~6月	4.3	15.2	39.1	30.4	8.7	2.2	43.8
第33回	2018年	7~12月	4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6
第32回	2018年	1~6月	0.0	23.7	50.0	23.7	2.6	0.0	48.7
第31回	2017年	7~12月	2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0.0	51.2
第30回	2017年	1~6月	2.1	14.9	55.3	25.5	2.1	0.0	47.3
第29回	2016年	7~12月	0.0	10.2	59.2	28.6	2.0	0.0	45.4
第28回	2016年	1~6月	0.0	20.4	44.4	24.1	11.1	0.0	44.5
第27回	2015年	7~12月	0.0	23.9	50.0	21.7	4.3	0.0	49.4
第26回	2015年	1~6月	2.0	16.3	47.0	26.5	6.1	2.0	45.4
第25回	2014年	7~12月	2.2	10.9	47.8	32.6	6.5	0.0	43.3
第24回	2014年	1~6月	2.0	22.0	30.0	30.0	14.0	2.0	41.8
第23回	2013年	7~12月	8.2	30.6	36.7	16.3	8.2	0.0	53.6
第22回	2013年	1~6月	1.9	18.5	37.0	37.0	3.7	1.9	44.4
第21回	2012年	7~12月	0.0	10.2	36.7	30.6	20.4	2.1	34.3
第20回	2012年	1~6月	2.1	20.8	33.3	29.2	14.6	0.0	42.4
第19回	2011年	7~12月	7.3	27.3	18.2	29.1	16.3	1.8	45.0
第18回	2011年	1~6月	0.0	3.8	17.3	46.2	30.8	1.9	23.5
第17回	2010年	7~12月	4.4	20.0	42.2	24.4	9.0	0.0	46.6
第16回	2010年	1~6月	2.1	20.8	33.3	27.1	14.6	2.1	42.0
第15回	2009年	7~12月	2.1	4.2	29.2	39.6	24.9	0.0	29.8
第14回	2009年	1~6月	1.8	3.5	10.5	49.1	33.3	1.8	22.4
第13回	2008年	7~12月	0.0	0.0	14.9	42.6	38.2	4.3	18.9
第12回	2008年	1~6月	0.0	6.7	26.7	46.7	19.9	0.0	30.1
第11回	2007年	7~12月	0.0	6.4	40.4	40.4	12.8	0.0	35.1
第10回	2007年	1~6月	1.9	17.3	36.5	36.5	3.9	3.9	43.9
第9回	2006年	7~12月	4.2	18.8	41.7	25.0	8.2	2.1	46.4

第8回	2006年	1~6月	0.0	34.0	46.8	14.9	4.3	0.0	52.6
第7回	2005年	7~12月	2.2	40.0	28.9	20.0	6.7	2.2	52.8
第6回	2005年	1~6月	0.0	19.5	31.7	41.5	7.3	0.0	41.5
第5回	2004年	7~12月	2.5	15.0	35.0	30.0	17.5	0.0	38.8
第4回	2004年	1~6月	2.8	19.4	30.6	38.9	8.3	0.0	42.4
第3回	2003年	7~12月	4.0	14.0	28.0	38.0	14.0	2.0	38.8
第2回	2003年	1~6月	3.4	11.9	30.5	39.0	15.3	0.0	37.3
初回	2002年	7~12月	2.5	8.6	21.0	28.4	37.0	2.5	27.2

質問 10 業界の小山市の売上高見通し(来半期の見通し)

見通し対象時期			増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	2024年	1~6月	3.0	24.2	60.6	12.1	0.0	0.0	54.5
前回	2023年	7~12月	0.0	42.9	42.9	8.6	5.7	0.0	55.7
前々回	2023年	1~6月	0.0	27.3	48.5	21.2	3.0	0.0	50.0
第40回	2022年	7~12月	2.6	21.1	50.0	15.8	7.9	2.6	48.6
第39回	2022年	1~6月	2.6	43.6	35.9	15.4	2.6	0.0	57.1
第38回	2021年	7~12月	0.0	34.8	43.5	15.2	4.3	2.2	52.8
第37回	2021年	1~6月	0.0	15.9	36.4	29.5	15.9	2.3	38.4
第36回	2020年	7~12月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
第35回	2020年	1~6月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7
第34回	2019年	7~12月	2.2	21.7	38.0	29.3	4.3	4.3	46.8
第33回	2019年	1~6月	2.2	24.4	57.8	15.6	0.0	0.0	53.3
第32回	2018年	7~12月	5.3	15.8	63.2	15.8	0.0	0.0	52.7
第31回	2018年	1~6月	0.0	30.2	53.5	14.0	2.3	0.0	52.9
第30回	2017年	7~12月	0.0	10.6	66.0	19.1	4.3	0.0	45.7
第29回	2017年	1~6月	0.0	18.4	61.2	18.4	2.0	0.0	49.0
第28回	2016年	7~12月	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6	0.0	50.0
第27回	2016年	1~6月	0.0	17.4	50.0	28.3	2.2	0.0	45.1
第26回	2015年	7~12月	0.0	18.4	55.1	24.5	2.0	0.0	47.5
第25回	2015年	1~6月	0.0	23.9	43.5	23.9	6.5	2.2	47.4
第24回	2014年	7~12月	2.0	18.0	44.0	28.0	6.0	2.0	45.4
第23回	2014年	1~6月	2.0	26.5	44.9	16.3	10.2	0.0	48.4
第22回	2013年	7~12月	1.9	33.3	48.1	9.3	5.5	1.9	54.3
第21回	2013年	1~6月	2.0	32.7	34.7	18.4	10.2	2.0	49.5
第20回	2012年	7~12月	0.0	16.7	39.6	27.1	14.5	2.1	39.9
第19回	2012年	1~6月	0.0	18.2	50.9	23.6	7.3	0.0	45.0
第18回	2011年	7~12月	3.8	13.5	40.4	28.8	11.6	1.9	42.1
第17回	2011年	1~6月	4.4	15.6	57.8	17.8	4.4	0.0	49.5
第16回	2010年	7~12月	0.0	27.1	47.9	10.4	10.4	4.2	48.9
第15回	2010年	1~6月	0.0	10.4	39.6	31.3	18.7	0.0	35.4
第14回	2009年	7~12月	1.8	17.5	31.6	35.1	12.2	1.8	40.2
第13回	2009年	1~6月	0.0	2.1	14.9	19.1	59.6	4.3	14.4
第12回	2008年	7~12月	0.0	4.4	24.4	53.3	17.9	0.0	28.8
第11回	2008年	1~6月	0.0	10.6	44.7	38.3	6.4	0.0	39.9
第10回	2007年	7~12月	1.9	23.1	57.7	13.5	0.0	3.8	53.5

第9回	2007年	1~6月	2.1	29.2	39.6	16.7	6.2	6.2	51.2
第8回	2006年	7~12月	2.1	21.3	59.6	10.6	4.3	2.1	51.6
第7回	2006年	1~6月	0.0	35.6	42.2	13.3	4.5	4.4	53.5
第6回	2005年	7~12月	0.0	22.0	51.2	26.8	0.0	0.0	48.8
第5回	2005年	1~6月	2.5	17.5	27.5	40.0	10.0	2.5	40.4
第4回	2004年	7~12月	0.0	19.4	58.3	13.9	2.8	5.6	50.0
第3回	2004年	1~6月	2.0	18.0	34.0	30.0	12.0	4.0	41.7
第2回	2003年	7~12月	0.0	10.0	43.3	31.7	15.0	0.0	37.1
初回	2003年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 12 来半期の販売価格見通し

見通し対象時期			上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回	2024年	1~6月	3.0	36.4	54.5	6.1	0.0	0.0	59.1
前回	2023年	7~12月	2.9	45.7	45.7	5.7	0.0	0.0	61.4
前々回	2023年	1~6月	6.1	30.3	51.5	12.1	0.0	0.0	57.6
第40回	2022年	7~12月	10.5	31.6	39.5	13.2	2.6	2.6	58.8
第39回	2022年	1~6月	2.6	38.5	48.7	7.7	0.0	2.6	59.2
第38回	2021年	7~12月	4.3	15.2	58.7	15.2	4.3	2.2	50.0
第37回	2021年	1~6月	2.3	6.8	59.1	22.7	6.8	2.3	43.6
第36回	2020年	7~12月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
第35回	2020年	1~6月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3
第34回	2019年	7~12月	2.2	17.4	52.2	23.9	0.0	4.3	49.5
第33回	2019年	1~6月	0.0	13.3	71.1	13.3	13.3	0.0	48.9
第32回	2018年	7~12月	0.0	10.5	73.7	13.2	0.0	2.6	49.3
第31回	2018年	1~6月	0.0	18.6	69.8	11.6	0.0	0.0	51.8
第30回	2017年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回	2017年	1~6月	0.0	21.3	61.7	10.6	2.1	4.3	51.7
第28回	2016年	7~12月	0.0	9.3	64.8	18.5	3.7	3.7	45.7
第27回	2016年	1~6月	2.2	13.0	63.0	19.6	2.2	0.0	48.4
第26回	2015年	7~12月	0.0	18.4	65.3	14.3	0.0	2.0	51.0
第25回	2015年	1~6月	0.0	22.9	58.3	12.5	4.2	2.1	50.5
第24回	2014年	7~12月	2.0	20.0	62.0	12.0	2.0	2.0	52.0
第23回	2014年	1~6月	4.1	22.4	47.0	20.4	4.1	2.0	50.5
第22回	2013年	7~12月	0.0	25.9	51.9	14.8	1.8	5.6	52.0
第21回	2013年	1~6月	2.0	16.3	51.0	22.5	4.1	4.1	46.3
第20回	2012年	7~12月	0.0	10.4	47.9	35.4	6.3	0.0	40.6
第19回	2012年	1~6月	0.0	9.1	50.9	30.9	5.5	3.6	41.5
第18回	2011年	7~12月	0.0	7.7	46.2	36.5	5.8	3.8	39.5
第17回	2011年	1~6月	0.0	11.1	51.1	35.6	2.2	0.0	42.8
第16回	2010年	7~12月	0.0	12.5	54.2	31.3	2.0	0.0	44.3
第15回	2010年	1~6月	0.0	4.2	39.6	41.7	14.5	0.0	33.4
第14回	2009年	7~12月	1.8	10.5	43.9	29.8	10.5	3.5	40.5
第13回	2009年	1~6月	0.0	4.3	23.4	40.4	29.8	2.1	25.6
第12回	2008年	7~12月	4.4	17.8	25.6	43.3	6.7	2.2	41.4
第11回	2008年	1~6月	2.1	16.0	43.6	29.8	4.2	4.3	45.3
第10回	2007年	7~12月	1.9	17.3	50.0	26.9	2.0	1.9	47.5

第9回	2007年	1~6月	2.1	18.8	54.2	16.7	4.1	4.1	49.6
第8回	2006年	7~12月	0.0	25.5	46.8	21.3	2.1	4.3	50.0
第7回	2006年	1~6月	0.0	26.7	46.7	20.0	4.4	2.2	49.5
第6回	2005年	7~12月	0.0	14.6	48.8	29.3	0.0	7.3	46.0
第5回	2005年	1~6月	0.0	8.1	45.9	40.5	5.5	0.0	39.2
第4回	2004年	7~12月	0.0	8.3	61.1	22.2	5.6	2.8	43.5
第3回	2004年	1~6月	0.0	12.0	38.0	40.0	6.0	4.0	38.8
第2回	2003年	7~12月	0.0	8.6	32.8	48.3	10.3	0.0	34.9

(注) 販売価格見直しは第2回から実施

質問 13 来半期の雇用見通し

見通し対象時期			不足する	やや不足	横ばい	やや過剰	過剰	無回答	DI
今年	2024年	1~6月	6.1	42.4	39.4	12.1	0.0	0.0	60.6
前回	2023年	7~12月	11.4	40.0	45.7	2.9	0.0	0.0	65.0
前々回	2023年	1~6月	12.1	27.3	57.6	0.0	0.0	3.0	63.3
第40回	2022年	7~12月	7.9	18.4	65.8	2.6	0.0	5.3	58.3
第39回	2022年	1~6月	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0	0.0	57.7
第38回	2021年	7~12月	2.2	15.2	67.4	8.7	2.2	4.3	51.7
第37回	2021年	1~6月	2.3	13.6	63.6	11.4	4.5	4.5	49.4
第36回	2020年	7~12月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
第35回	2020年	1~6月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4
第34回	2019年	7~12月	4.3	23.9	63.0	4.3	0.0	4.3	57.3
第33回	2019年	1~6月	13.3	35.6	46.7	0.0	2.2	2.2	64.8
第32回	2018年	7~12月	2.6	21.1	65.8	7.9	0.0	2.6	54.7
第31回	2018年	1~6月	7.0	30.2	60.5	2.3	0.0	0.0	60.5
第30回	2017年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回	2017年	1~6月	10.6	34.0	53.2	2.1	0.0	0.0	65.7
第28回	2016年	7~12月	3.7	18.5	70.4	1.9	1.9	3.7	55.3
第27回	2016年	1~6月	0.0	26.2	64.3	7.1	2.4	0.0	53.6
第26回	2015年	7~12月	6.1	22.5	65.3	4.1	0.0	2.0	57.8
第25回	2015年	1~6月	8.3	33.3	54.2	2.1	2.1	0.0	62.3
第24回	2014年	7~12月	0.0	28.6	67.4	2.0	2.0	0.0	55.7
第23回	2014年	1~6月	2.0	26.5	59.2	8.2	0.0	4.1	55.8
第22回	2013年	7~12月	0.0	11.1	77.8	7.4	0.0	3.7	51.0
第21回	2013年	1~6月	0.0	14.3	67.3	14.3	2.1	2.0	48.9
第20回	2012年	7~12月	0.0	6.3	62.5	20.8	6.3	4.1	43.0
第19回	2012年	1~6月	1.8	18.2	63.6	9.1	1.8	5.5	52.4
第18回	2011年	7~12月	0.0	9.6	61.5	23.1	2.0	3.8	45.5
第17回	2011年	1~6月	0.0	6.7	64.4	26.7	2.2	0.0	43.9
第16回	2010年	7~12月	2.1	8.3	66.7	12.5	6.2	4.2	46.8
第15回	2010年	1~6月	2.1	2.1	54.2	35.4	4.1	2.1	40.5
第14回	2009年	7~12月	0.0	7.0	56.1	24.6	3.5	8.8	43.3
第13回	2009年	1~6月	4.3	2.1	34.0	36.2	14.9	8.5	34.9
第12回	2008年	7~12月	0.0	11.1	80.0	8.9	0.0	0.0	50.6
第11回	2008年	1~6月	2.1	17.0	70.2	6.4	0.0	4.3	53.9
第10回	2007年	7~12月	3.8	26.9	63.5	1.9	0.0	3.9	58.4

第9回	2007年	1~6月	8.3	22.9	52.1	8.3	0.0	8.4	58.5
第8回	2006年	7~12月	2.1	21.3	53.2	14.9	2.1	6.4	51.7
第7回	2006年	1~6月	0.0	13.3	73.3	6.7	2.3	4.4	50.5
第6回	2005年	7~12月	0.0	22.0	61.0	9.8	0.0	7.2	53.3
第5回	2005年	1~6月	5.0	5.0	65.0	20.0	2.5	2.5	47.4
第4回	2004年	7~12月	0.0	16.7	72.2	8.3	2.8	0.0	50.7
第3回	2004年	1~6月	0.0	8.0	56.0	30.0	4.0	2.0	42.3
第2回	2003年	7~12月	0.0	8.8	57.9	28.1	5.2	0.0	42.6

(注) 雇用見通しは第2回から実施

質問 14 資金繰りの状況(前半期との比較)

			改善した	やや改善	どちらとも いけない	やや悪化	悪化した	無回答	DI
今回	2023年	7~12月	0.0	21.2	54.5	21.2	3.0	0.0	48.5
前回	2023年	1~6月	0.0	20.0	54.3	22.9	2.9	0.0	47.9
前々回	2022年	7~12月	0.0	21.2	51.5	24.2	3.0	0.0	47.7
第40回	2022年	1~6月	5.3	10.5	50.0	23.7	10.5	0.0	44.1
第39回	2021年	7~12月	2.6	30.8	46.2	15.4	5.1	0.0	52.6
第38回	2021年	1~6月	2.2	19.6	56.5	15.2	6.5	0.0	48.9
第37回	2020年	7~12月	0.0	18.2	52.3	18.2	9.1	2.3	45.3
第36回	2020年	1~6月	8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
第35回	2019年	7~12月	2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0
第34回	2019年	1~6月	6.5	8.7	69.6	13.0	0.0	2.2	52.2
第33回	2018年	7~12月	2.2	24.4	62.2	11.1	0.0	0.0	54.4
第32回	2018年	1~6月	2.6	15.8	68.4	10.5	0.0	2.6	52.6
第31回	2017年	7~12月	4.7	14.0	62.8	18.6	0.0	0.0	51.3
第30回	2017年	1~6月	4.3	17.0	70.2	8.5	0.0	0.0	54.3
第29回	2016年	7~12月	2.1	17.0	68.1	12.8	0.0	0.0	53.1
第28回	2016年	1~6月	7.4	9.3	61.1	18.5	1.9	1.9	50.5
第27回	2015年	7~12月	4.3	10.9	69.6	13.0	2.0	2.2	51.7
第26回	2015年	1~6月	2.0	6.2	71.4	16.4	2.0	2.0	47.4
第25回	2014年	7~12月	2.1	10.4	64.6	20.8	0.0	2.1	48.4
第24回	2014年	1~6月	4.0	20.0	56.0	18.0	2.0	0.0	51.5
第23回	2013年	7~12月	4.1	16.3	59.2	18.4	0.0	2.0	51.6
第22回	2013年	1~6月	3.7	22.2	51.9	18.5	0.0	3.7	52.9
第21回	2012年	7~12月	6.1	16.3	53.1	14.3	8.2	2.0	49.4
第20回	2012年	1~6月	2.1	18.8	58.3	8.3	8.3	4.2	49.5
第19回	2011年	7~12月	9.1	7.3	50.0	20.9	7.2	5.5	47.4
第18回	2011年	1~6月	0.0	9.6	48.1	26.9	11.6	3.8	39.5
第17回	2010年	7~12月	0.0	17.8	55.6	15.6	8.8	2.2	46.1
第16回	2010年	1~6月	4.2	8.3	54.2	27.1	6.2	0.0	44.3
第15回	2009年	7~12月	2.1	4.2	62.5	16.7	14.5	0.0	40.7
第14回	2009年	1~6月	3.5	10.5	33.3	36.8	10.6	5.3	39.3
第13回	2008年	7~12月	2.1	6.4	44.7	34.0	12.8	0.0	37.8
第12回	2008年	1~6月	0.0	13.3	48.9	35.6	2.2	0.0	0.0
第11回	2007年	7~12月	4.3	8.5	46.8	27.7	6.3	6.4	43.8
第10回	2007年	1~6月	3.8	17.3	53.8	21.2	0.0	3.9	50.9

第9回	2006年	7~12月	6.3	16.7	54.2	12.5	6.1	4.2	51.2
第8回	2006年	1~6月	0.0	21.3	59.6	12.8	2.0	4.3	51.2